

京都市の学校評価システム

令和6年度実施状況

—学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」—

令和7年9月

京都市教育委員会

目 次

1 京都市における学校評価の考え方	．．．．．	1
2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」 による第三者評価	．．．．．	4
3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について	．．．．．	5
〔参考〕		
京都市立祥豊小学校における実践事例	．．．．．	9
京都市立大淀中学校における実践事例	．．．．．	24

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を推進するため、また、そのための教育活動を絶えず、改善するために、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」や「教育活動の質的向上」等に努めてきた。

国においては、平成19年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」が努力義務とされた。

本市では、これらに加え、学校教育の質の向上につなげるため、法令上の義務付けのない第三者評価として、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置し、学校評価の実施状況を客観的に検証するとともに、「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」に基づき、次の4点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。（参考1-1～参考1-4参照）

（1）学校評価をみんなのものにする（学校関係者評価）

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員で共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果を公表し、保護者や地域の方々とも共有することを通して、学校評価は、子どもたちの学校生活を「市民ぐるみ・地域ぐるみ」で「よりよいもの」とするための重要な役割を担っている。

（2）当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子どもや、学校のために何ができるのかを、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことにしている。

（3）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、足りないところを指摘するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下で「みんなごと」としての学校評価を進めている。

（4）学校の魅力を発見し、発信する

学校教育活動への保護者や地域の方の深い理解と協働を得ていくためには、学校の魅力や課題の発見につながる工夫に富んだ情報発信が必要である。

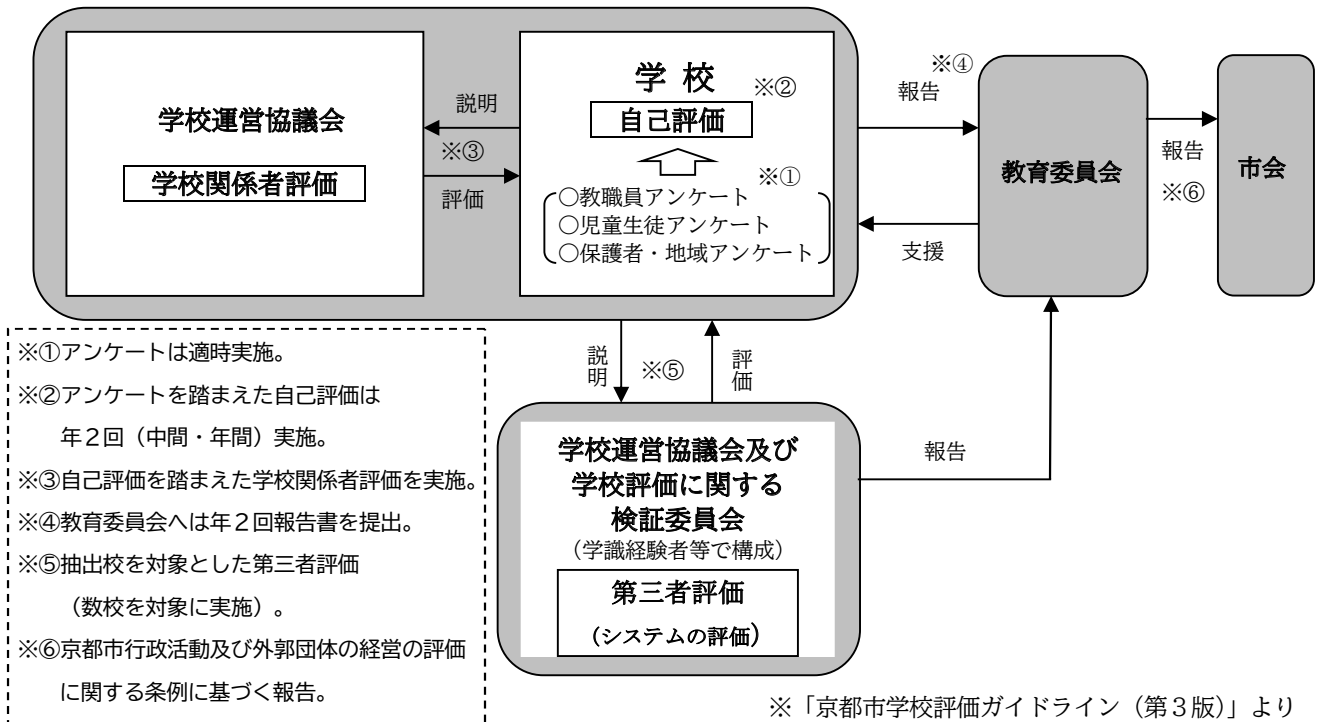
そのため、本市では、ICTを活用し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくとりまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報発信している。

参考1-1 制度導入の経緯

平成13年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成15年 4月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成16年 3月	全校・園での評価結果の公表
平成19年 4月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第2版）
平成19年 6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成19年 7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正）
平成21年 6月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第3版）

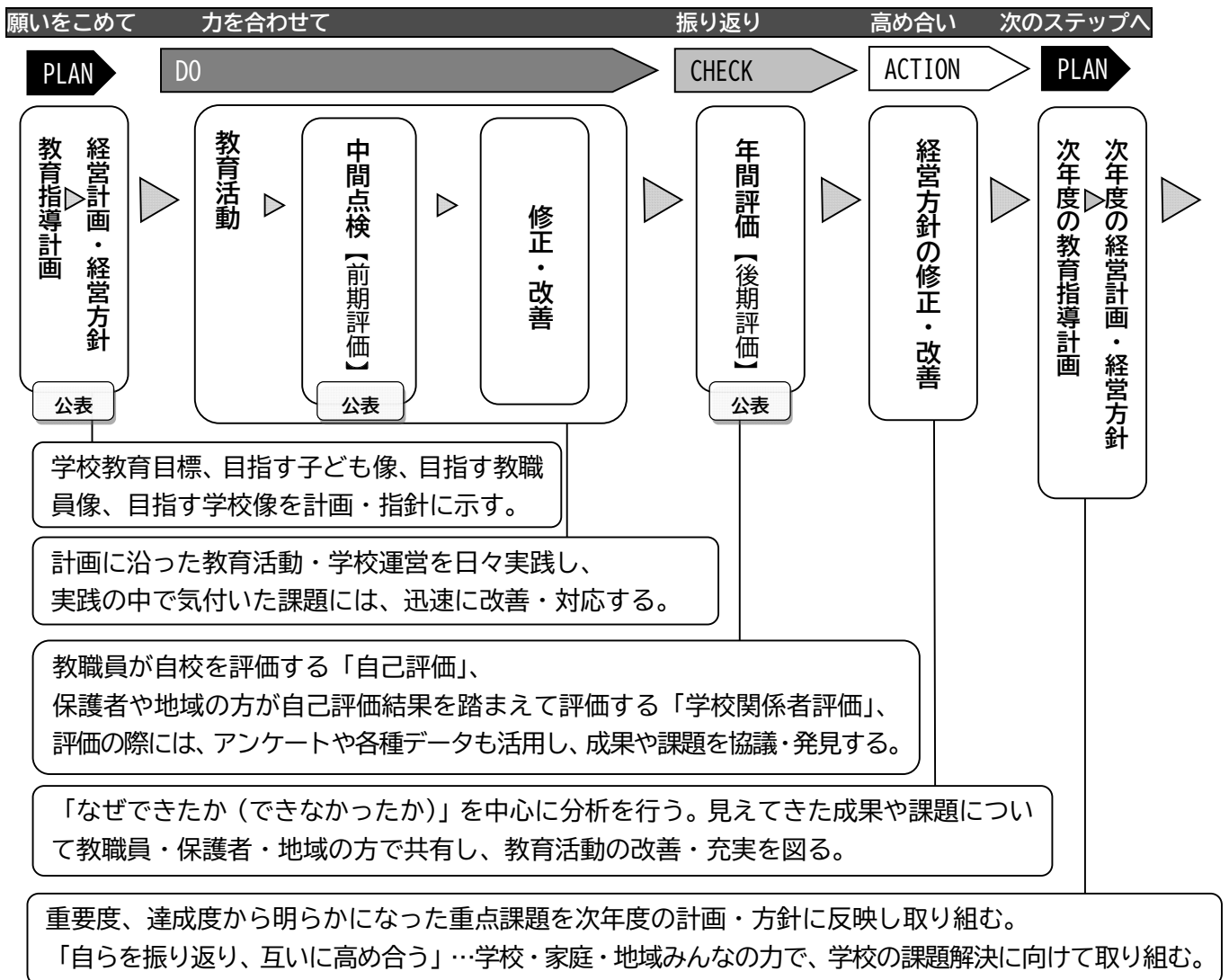
参考1-2

「自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図」



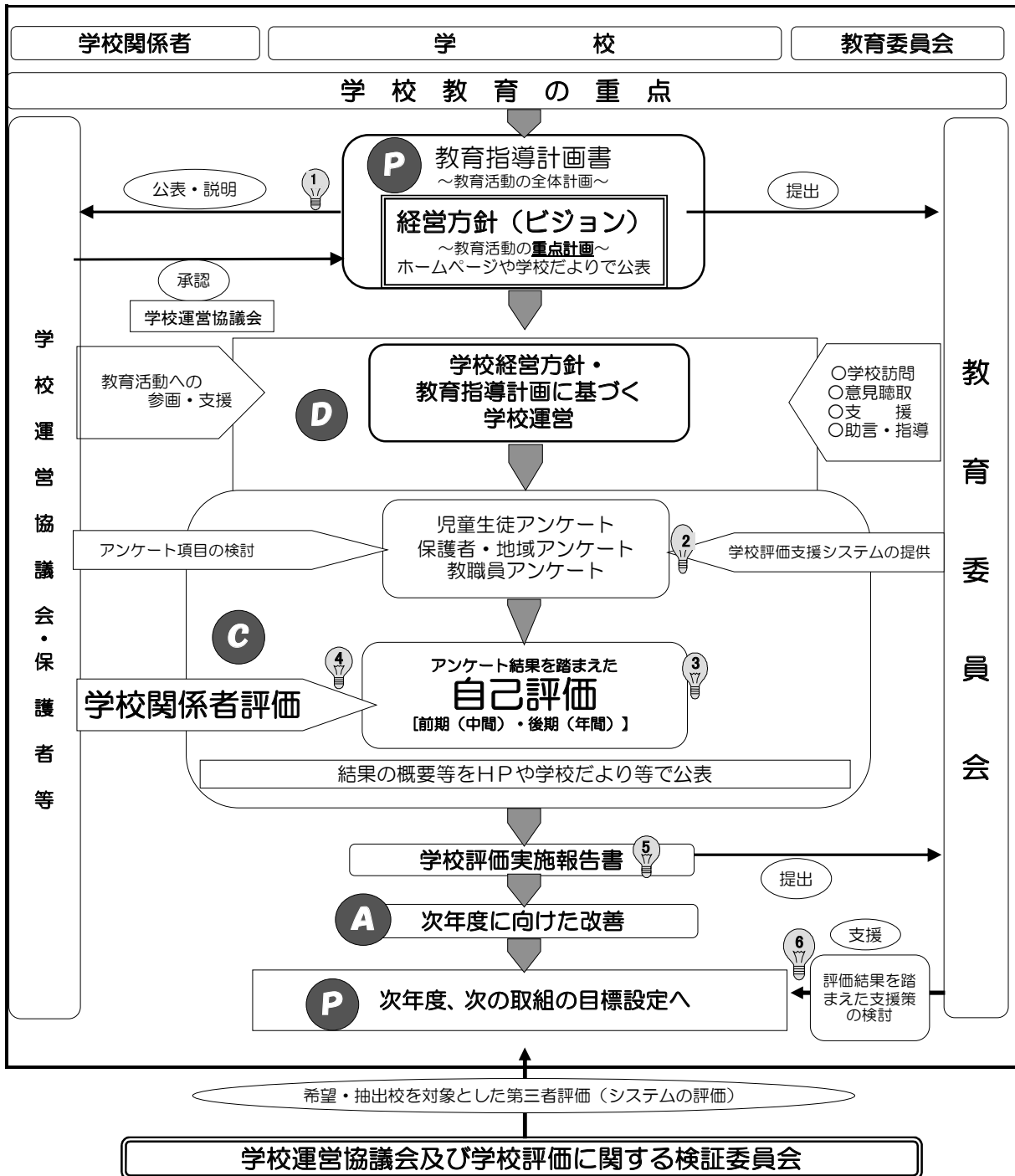
参考1-3

「PDCA サイクルに基づく学校評価の流れ」



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定、公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用し、助言する

※「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」より

2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

(1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性・信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【令和6年度検証委員会委員】（敬称略・役職等は令和6年度のもの）

◎小松 郁夫	国立教育政策研究所 名誉所員
○天笠 茂	千葉大学 名誉教授
天野 広一	公募委員
梶谷 良野	株式会社島津製作所 常務執行役員
塩見 葉子	PTA 代表（京都市小学校 PTA 連絡協議会副会長）
鈴木 美和	公募委員
笠沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授

※ ◎は委員長、○は副委員長。委員長・副委員長を除き、五十音順に記載。

(2) 令和6年度 検証委員会の実施状況

令和6年10月18日（金）、12月16日（月）に会議を開催。また、各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として、祥豊小学校（南区）、大淀中学校（伏見区）の2校を訪問。

<委員の主な発言>

学校運営協議会の在り方

- 地域の大人たちが、この地域において、どのような子どもを育てていきたいのかを議論し、学校運営協議会がどのように学校をサポートするかを検討することが大事。
- 企業でも時間単位の休暇や育児目的の休暇など、社員が学校や地域の活動に参加する制度は整いつつあるが、多忙の中、実際に参加するハードルは高い。様々な人に参加してもらうには、参加することの魅力、取組の目的や具体的な内容を見せていくことが大事。
- 京都市では全国に先駆けて学校運営協議会が設置され、メンバーの高齢化が課題となっているケースもある。最近では、部活動で学生など若い世代が学校に関わる機会も増えており、そうした人材に学校全体のことに関わってもらうようにできればよい。
- 学校運営協議会の委員を孤立させないためにも、学校運営協議会の取組について、分かりやすい発信などを通じて教職員や地域の理解を促進することが必要。
- これまでの学校運営協議会は各校園や地域での活動にとどまっていたが、次のステップとして、自校の前後の学校園（小学校であれば幼稚園と中学校等）との連携を意識した活動を行って欲しい。学校運営協議会の委員には、異なる校種の委員を掛け持ちしている方もおられ、そうした方に連携の橋渡しを担ってもらうことも考えられる。
- 学校運営協議会は仕組みとしては一定構築されており、今後は質の向上、そのための組織の在り方についての検討が必要な段階にきている。

学校評価の活用等

- 学校評価のアンケートについて、コロナ等の変化も踏まえた設問に見直されている点はよい。コロナによる体力や言語の発達、対人関係への影響は懸念されており、引き続き、子どもたちの様子を注視していくことが必要。
- 学校評価では、評価結果を基に教員同士で議論することが必要。
- 学校評価には、子どもたちの成長や学校の変化によって、改善が進んでいる点、課題がある点などを保護者に伝え、その理解と協力を求める活用方法もある。学校評価の結果の伝え方について、学校として様々な工夫を期待したい。
- ホームページなどを活用した詳細な情報発信は、保護者や地域住民への説明責任を果たし、保護者・地域と共に、魅力ある学校を創造していこうとする熱意が表れるものであり重要。
- 学校運営協議会などに期待される学校関係者としての主体的な取組や分析がやや弱いのではないかと懸念する。学校運営協議会の会議などを活用した集中的な分析や熟議を期待する。
- 学校運営協議会が学校評価にどう関わったか、自己評価をどう評価したかまで含んだ情報発信をしてほしい。
- 学校運営協議会でこういった議論がされているか公表されるとよい。

学校教育の充実等

- 子どもたちに教科や学びの面白さを伝えるためには、教師自身が本当にその学びの面白さを実感できていることが大事。
- 他教科の先生同士が互いに刺激しながら、各教科のつながりを意識した授業づくりを進めてほしい。
- 自由進度学習など、新たな取組を実施する際には、保護者へ丁寧に説明し、理解と協力を得るように努めるとともに、取組の効果と課題を検証する仕組みを設ける必要がある。
- GIGA 端末の活用は大事だが、実体験不足は不安。小学校、中学校の9年間を見通した段階的な指導を進めて欲しい。
- 単にどんどんアプリを使うということだけでなく、活用方法（ICTで何ができるのか）を学ぶことも必要。

学校経営

- 校長が教職員に対して、現状と課題について説明を行うことで、教職員の理解と共感を得ながら課題解決に向けた取組を実践できている。
- 「複数の教職員で複数の児童に関わる」という学校経営は、“チーム学校”としての総合力の発揮だけでなく、授業力や学級・学年経営力の向上、さらには、研修の活発化などにも連動するため、指導力向上の手立てとしても大いに期待できる。
- 小中連携に向けては、ブロック内の中学校と小学校が義務教育における出口の姿（中学校卒業時の生徒の姿）を共有することが重要。
- 小中一貫教育にとどまらず、0～18歳を見通した教育を組織的に行って欲しい。
- 働き方改革に向けた取組について、事前に保護者や地域へアンケートを取るなど、丁寧な説明を行うことで、児童、教職員、保護者の理解を得ながら推進することが肝要。

3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について

令和7年6月に本市が学校・園を対象に行った各校での令和6年度における学校評価の実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題と今後の方向性について、以下のとおり概説する。

なお、**参考2-1**～**参考2-5**は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

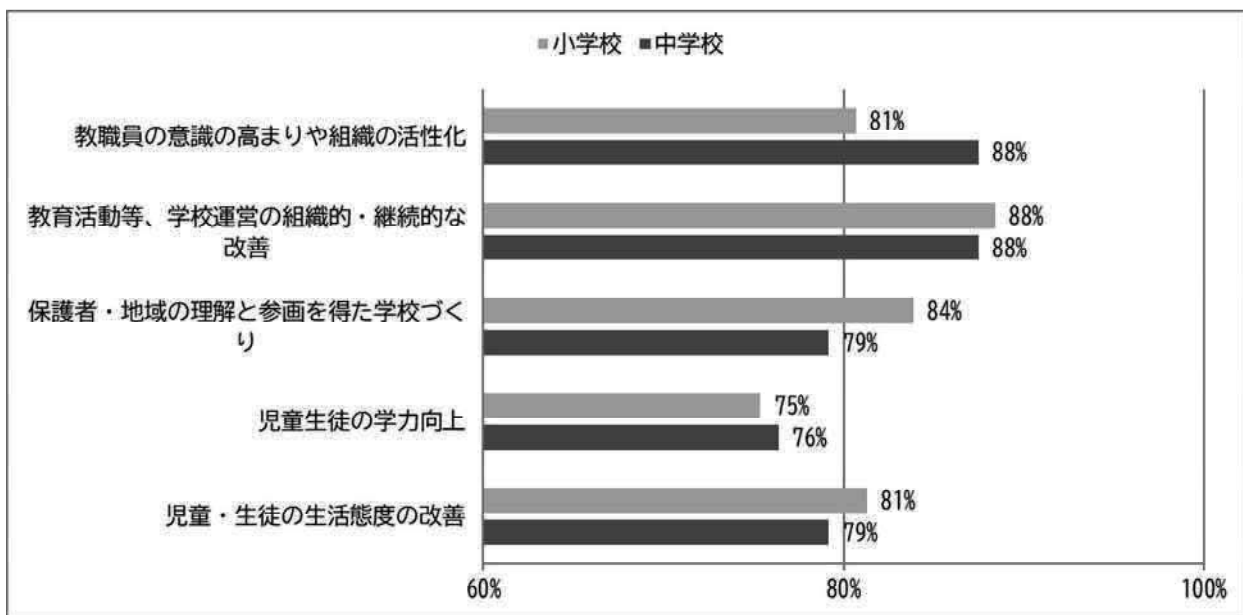
(1) 学校評価の活用による効果について

自己評価による振り返りや学校関係者評価による成果や課題の共有等を通じて、教職員の意識の向上や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善に効果が見られたほか、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりが進み、ひいては、児童生徒の学力向上や生活態度の改善にも効果があったとの回答が多くあった。(参考2-1参照)

P9に本市の実践事例として掲載する祥豊小学校では、学校評価を通じた実態の把握、関係者への発信を進めることで、地域等の学校への理解を深め、学校教育活動の改善、地元企業や地域の多様な人材を活かした体験学習の推進、学校の取組を支援する地域のボランティアの学校教育活動への参画など、地域ぐるみの教育活動へと繋げている。

このように本市では、学校評価を基軸とした PDCA サイクルの中で明らかとなった成果や課題を、教職員だけでなく、学校運営協議会をはじめとした家庭・地域等と共有し、市民ぐるみ、地域ぐるみによる魅力ある学校づくりが進められている。

参考2-1 学校評価の効果について（学校からの回答）



(2) 学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題と今後の方向性について

ア 評価実施に伴う業務負担の軽減

課題としては、アンケートの回収、結果の集計や分析、結果報告書の作成といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感を挙げる学校が多い。(参考2-2参照)

本市では、Web 上でアンケート作成・集約等を容易に行うことのできるツールの活用を各学校に推奨しており、小・中学校（義務教育学校含む）の96%で活用に至っているものの、少なからず、アンケート集計等に係る負担感を挙げている学校もあることから、結果分析における生成AIの活用など、負担軽減のための新たな方策も検討していく。

イ 評価結果の共有及び改善の取組

学校評価を通して判明した学校や児童生徒に係る課題については、多くの学校で教職員に説明・共有されているほか学校運営協議会等でも協議されるなど、地域ぐるみで課題解決に向かう関係性が築かれている。一方で、教職員間での改善策についての話し合い（小学校：59%、中学校：47%）や次年度の教育指導計画等への反映（小学校：52%、中学校：35%）など、具体的な解決に向かう行動が取れているかについては、課題が見られる。

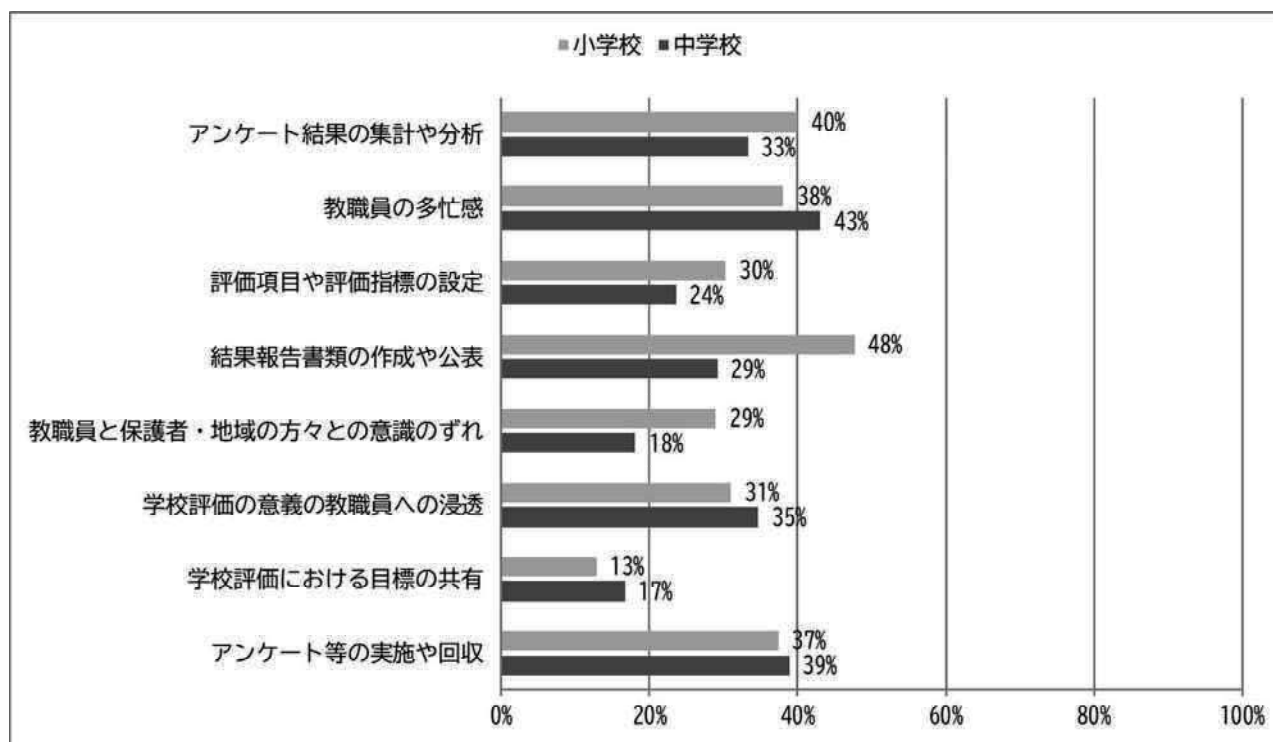
(参考2-3参照)

学校評価は、学校や地域の状況に沿った評価を実施し、課題を明らかにするだけでなく、教職員や学校運営協議会の理事・委員をはじめ、保護者や地域の方々と広く共有・熟議し、具体的な改善に向かって協働するなど、課題の改善に向けたPDCAサイクルを回していくことが肝要であり、その繰り返しが学校教育の質の向上と学校評価の取組の質の向上につながる。そうした認識や具体的な取組手法の浸透のため、指導主事による指導助言を行っていく。

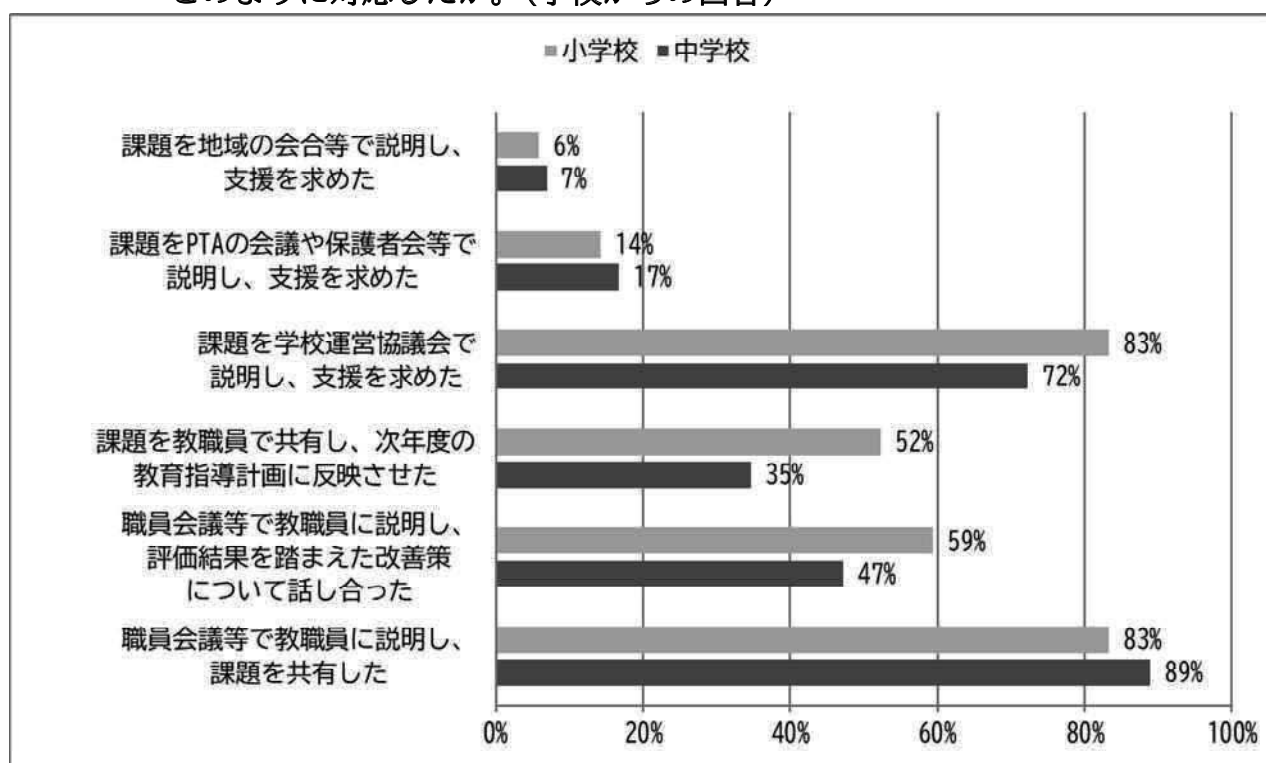
ウ 教育活動の充実等について

令和6年度の検証委員会では、教育 DX の進展や総合育成支援教育や不登校別室指導をはじめ、多様化する教育課題への対応など学校を取り巻く環境が変化中、学校の積極的かつ効果的な情報発信により、地域の理解や協力を得て、学校教育の充実を図りつつ、働き方改革の推進にも取り組んでいる学校を訪問した。社会構造が急激に変化し、予測困難とされる時代の中、子どもたちに自ら人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を育むためには、学校内だけではなく、保護者や地域等の多様な人的・物的資源等を活用しながら、教育活動を行うことが効果的である。次年度の検証委員会においても、こうした観点も踏まえ、各校の取組が一層充実したものとなるよう検証を進めていく。

参考2-2 学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点（学校からの回答）



参考2-3 学校評価を通して判明した「学校や生徒たちの課題」に対して、学校としてどのように対応したか。（学校からの回答）



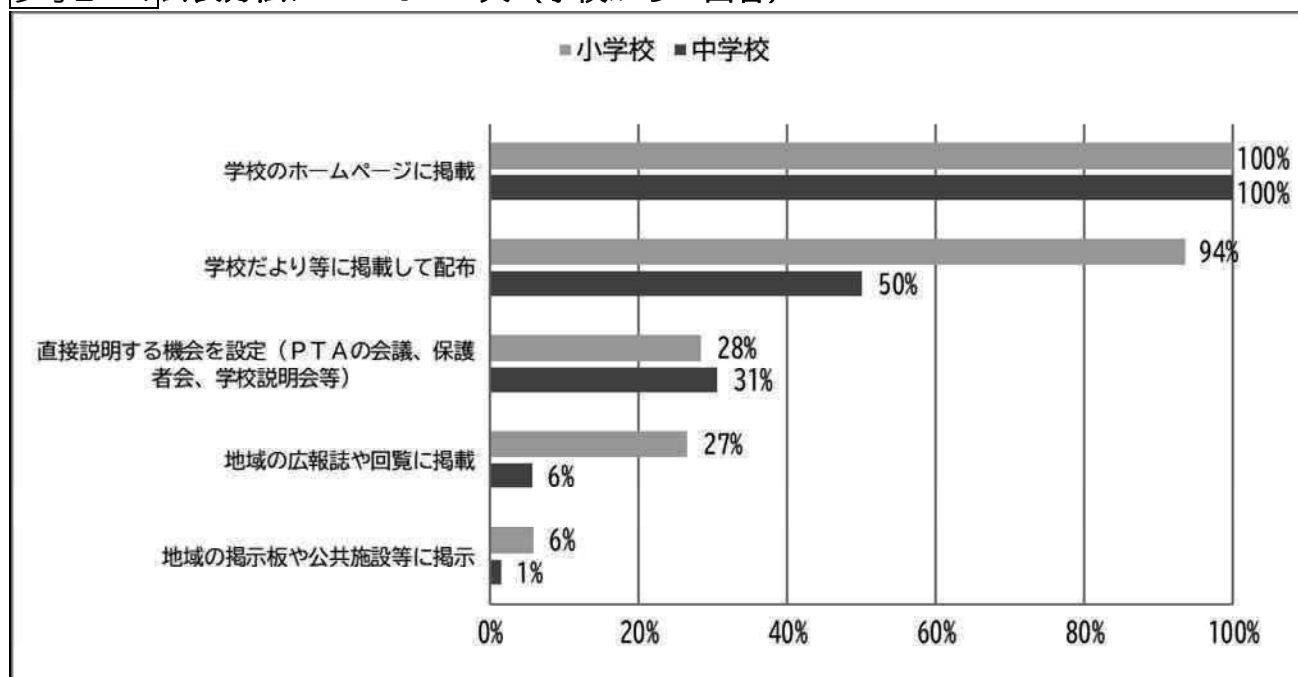
(3) 公表の方法や内容の工夫について

保護者や地域の方と協働して学校教育活動を推進するには、効果的な情報発信が欠かせない。

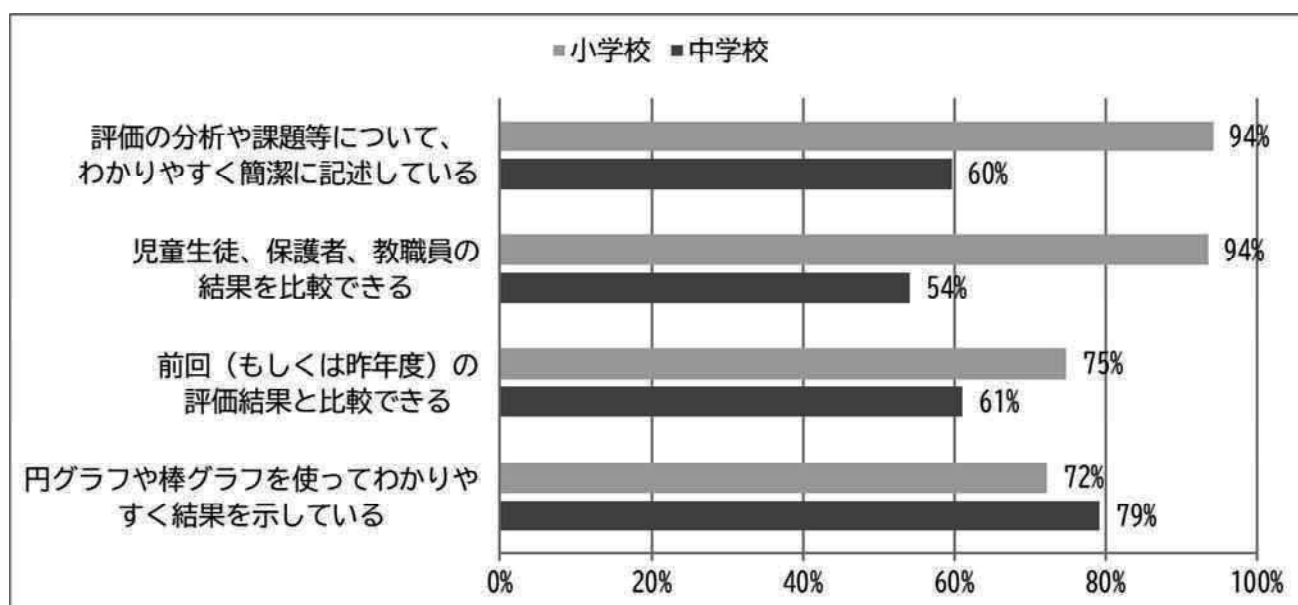
学校評価の結果については、全校でのホームページへの掲載や学校だより等でのお知らせなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用しているほか（参考2-4参照）、児童生徒・保護者・教職員の回答の比較や学校での取組と関連付けた考察の分析、イラスト化やグラフ化などの視覚に訴えるなど、分かりやすいものとなるよう、各校において工夫が施されている。（参考2-5参照）

また、地域ぐるみで魅力ある学校づくりを進めるうえでは、学校の考え、思いはもとより、学校評価をもとにした学校運営協議会における議論の内容等についても地域の方へ発信・共有することが、不可欠である。優れた情報発信の方法について、事例の共有や検証委員会等での協議を深め、更なる改善を図っていく。

参考2-4 公表方法についての工夫（学校からの回答）



参考2-5 公表内容についての工夫（学校からの回答）



<参 考>

京都市立祥豊小学校における実践事例

○所在地 京都市南区吉祥院三ノ宮町23

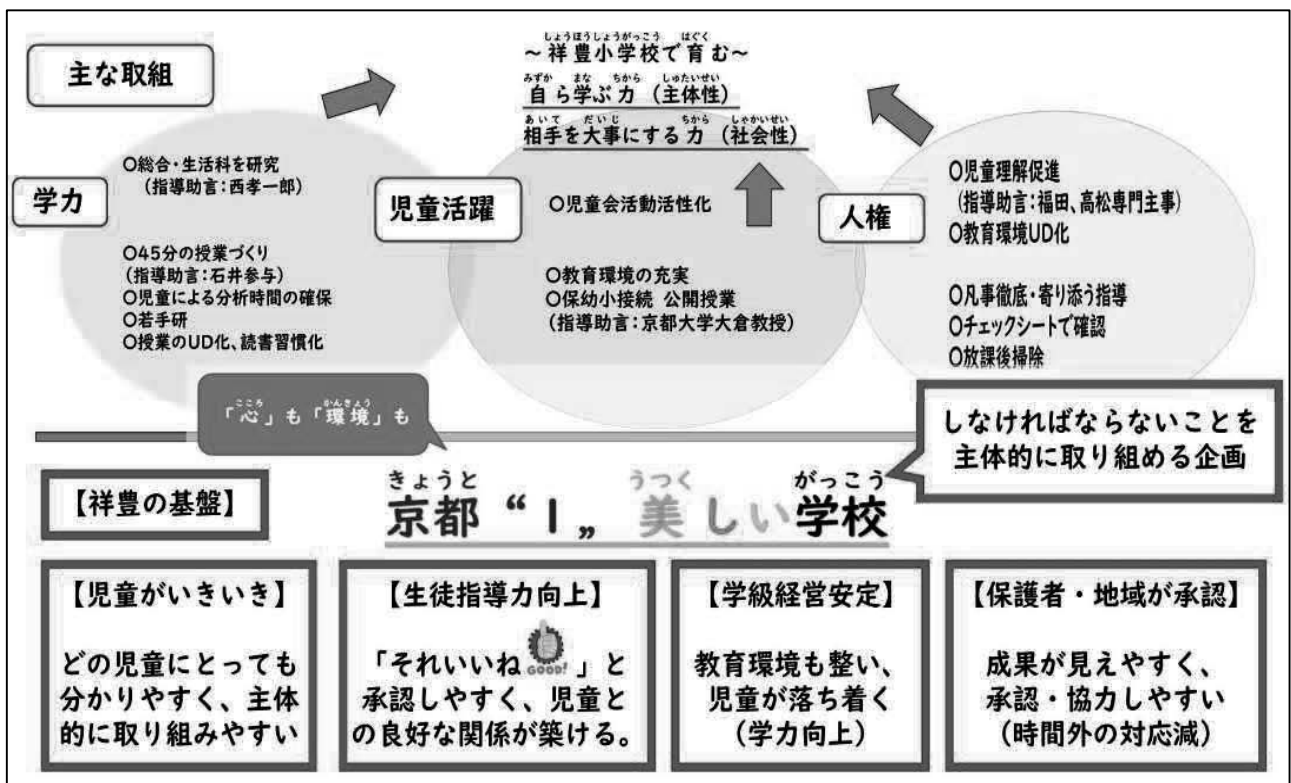
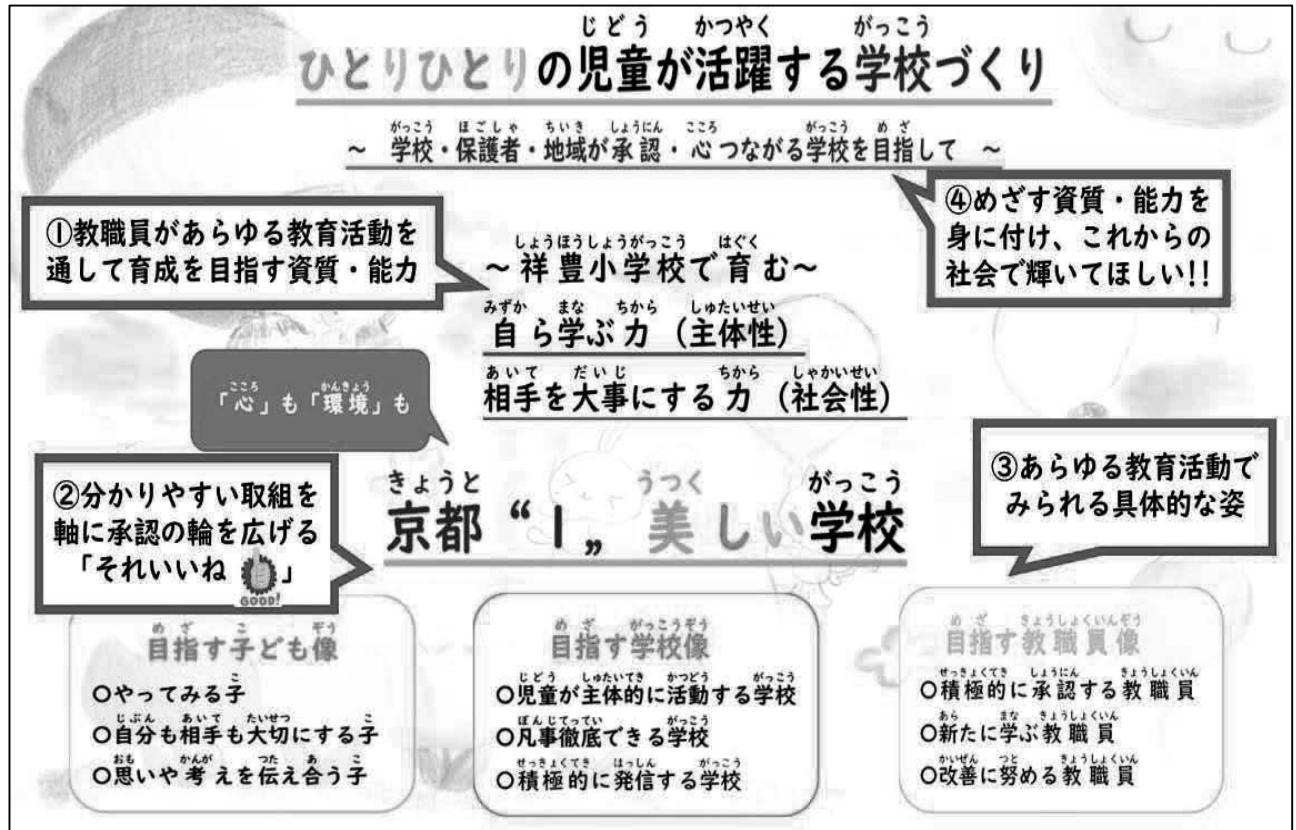
○児童数 373名（令和6年5月1日現在）

○創 設 1976年（昭和51年）開校

○中学校ブロック

洛南中学校、吉祥院小学校、祥栄小学校、祥豊小学校、上鳥羽小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。



1 評価のねらい

- 『学校教育目標』を意識し課題改善に徹底して取り組むことで、指導者の力量を向上させる。
- 『児童が学校を美しくしようとする』分かりやすい取組を活性化することで、学習規律や学習態度を向上させ、子どもを育てる。
- 組織改革を行い、持続可能なよりよい学校を目指す。(バランスのとれた校務分掌)

2 重点評価項目

(1)「確かな学力」の育成に向けて

- 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を通して、学びの質を高め児童の学力向上につなげる。
- 「児童が主体的に学ぶ」授業への改善という視点で、校内研究や日々の取組を充実させる。
- 学習に対する興味・関心を高め、進んで学習し、自ら学び続けようとする児童を育成する。
- これまでの教育実践と ICT 活用をベストミックスし GIGA 端末を活用した学習場面を適切に設定することで、協働的な学びと個別最適な学びをともに実現させる。
- 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

- 共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、一人一人のよさを伸ばす。
- 支え合い高め合う集団作りを推進する。
- 規範意識の育成を徹底する。
- 障害についての理解と認識を深め、互いを尊重しともに成長し合う教育を推進する。
- 自他ともに大切にしようとする子を育成する。
- 地域社会の一員であることを自覚し、地域を大切に、持続可能な社会の実現を目指す姿勢を養う。
- 伝統文化（茶道）や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実を図る。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

- 保健教育の充実と体力の向上を図る。
- 安全教育の充実を図る。
- 食に関する指導を推進する。

(4) 学校独自の取組

- 小中一貫教育の推進
- 「社会に開かれた教育課程」の下、PTA等の活動、地域・企業・大学・NPO等と連携・協働を図り、学校、地域、社会がつながる教育活動の推進と総合的な学習の時間を軸とした教科に関連をもたせた指導の工夫
- お便りやHPを活用した情報発信の工夫

(5) 教職員の働き方改革について

○教職員の資質向上 DAY（月 2 回の 4 時間授業日）の設定などを通じて、教職員が子どもと向き合う時間を確保することで児童主体の児童会まつりが企画されるなど、いきいきとやりがいを持って働くことができる環境を整備するとともに、質の高い教育活動を実践する。

○教職員一人一人が勤務時間を意識するとともに、業務の質を下げることなく、意欲的に職務内容の精選を行えるようにする。

○GIGA 端末を活用し、校務の効率化を図る。

3 評価項目の検討方法

学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋がられるよう、曖昧な基準にせず、長期的な変化を把握するために、具体的な数値や測定可能な評価指標を設定、学校運営協議会の場で協議し、意見を集約するなどして、評価項目を検討している。

4 評価手法

- ・学校評価に係る各指標を総合的に分析した年 2 回のアンケート調査（三者比較、変化比較）
- ・学力調査（全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、プレジョイントプログラム）の結果等
- ・各分掌主任による状況把握及び分析結果
- ・学校運営協議会の学校評価への関わり方
- ・教職員出退勤管理システムにより把握した教職員の時間外勤務状況や年休取得率

5 自己評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

- ・京都市小中一貫学習支援プログラム（ジョイントプログラム・プレジョイントプログラム）の結果が、全市平均を下回った。また、第 2 回学校評価アンケートの【学校でも家でも、よく本を読んでいますか。】や【授業では、自分の思いや考えを伝えていますか。】の項目で、肯定的な意見の割合が低かった。「自分の思いや考えをもち、計画・実行する力」の育成をめざして、自由進度学習への挑戦など、主体的に協働的に学習を進める工夫を行っていききたい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

- ・生徒指導や人権教育を基盤に、「豊かな心の育成」を続けていく中で、これからの社会において重要になってくる「情報モラル教育」にも力を入れていききたい。また、児童会活動を中心に、高学年児童が主体的に企画・運営を行うことができるように、サポートしていききたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

- ・児童の安全確保について、担任以外の教職員とも連携を深め、情報共有することで、安全指導に役立たせたい。また、学校ボランティアの協力なども得ながら、より一層学習環境を整え、安全に学校教育活動を行うことができるようにしていきたい。

(4) 学校独自の取組

- ・HPによる積極的発信の積み重ねが学校への信頼につながり、家庭・地域が学校教育活動への参画につながるいい循環になっていると考える。ただ、HPを見ない保護者もいるため、保護者連絡ツールなど今後も様々な手段を用いながら、情報発信をしていきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

- ・電話連絡時間や退出時間を徹底することで、教職員の働き方改革の意識は着実に高まっていると考えられる。
- ・校務支援員と連携を密にし、役割分担をすることで、仕事効率が上がっているが、限られた予算を、見通しをもって計画・執行することや、備品や物品の整理、物を大切に扱うこと、今あるものを長く保つ工夫などはじめ、各分掌主任としての意識が、まだ弱く改善に努めていく。

6 学校関係者評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

- ・「学校は楽しい」と9割近くの児童が回答したことを聞いて安心したが、残りの1割の子どもが気になるので、目を向けてほしい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

- ・祥豊まつりがとてもよかった。子どもたちが楽しそうにしている姿や、高学年の児童が生き生きと活動している姿、異学年が仲良く関わっている姿を見ることができて嬉しい。ぜひ来年度も開催してほしい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

- ・子どもたちがICT機器を上手に活用していることに驚かされるが、その分体力が落ちていないか、外遊びなどはしているのかなどが気になる。
- ・安全に対する学校の取組が分かってよかった。これからも、子どもたちの安全のために力を注いでほしい。

(4) 学校独自の取組

- ・HPの更新をととても楽しみにしている。これからも情報発信を続けてほしい。
- ・学校行事に、地域として何かできないか、学校運営協議会でも模索していきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

- ・学校ボランティアの活動が役に立って喜ばしい。もっといろいろボランティアを募れば、教職員に余裕ができ、子どもとの関わりに集中できると思う。教職員の方々の働き方改革を進め、子どもたちのために、いつも健康で元気でいてもらいたい。

7 ICT化の推進や働き方改革の推進、コロナ後の学校運営等、社会変容に応じた取組内容 (学校評価の実施に際して)

学校リーフレットを保護者連絡ツールで配信し、保護者に学校の教育目標や児童の様子を見ていただいたうえで、学校評価アンケートに回答してもらうようにした。

8 総括・次年度に向けた課題等

学校教育目標「京都“1,美しい学校”を具現化するために、

- ① 研究・学力向上を主とする「学力推進・基礎」、児童会活動・教育環境整備を主とする「児童活躍推進・基礎」、児童理解（ユニバーサルデザイン化推進含む）・生徒指導を主とする「人権推進・基礎」の3つの柱を中心にした「美しく部会」での議論をもっと活性化させ、全教職員が目標達成のために役割分担を明確にして取り組んでいく。
- ② 児童が主体的に活動する「お掃除隊」や「あいさつ運動隊」など、素晴らしい活動を生み出すことができたが、学校全体として、理想に掲げる目指す学校像には至っていないのが課題である。まずは、教職員間でより一層目指す学校像について意識を共有し、児童が主体的に活動する時間の確保に徹底的に取り組んでいく。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・「幼保小の架け橋プログラム公開授業による研究プロジェクトや小中連携による合同研修会の開催など、幼稚園、保育所、中学校との連携にも取り組んでいるが、今後、小学校の教員が就学前施設を見にいくなど、より一層の充実に努めてほしい。」という意見を受け、3学期には校区にある祥豊保育園の園児が授業を参観したり、1年児童と一緒に活動を行ったりする取組をさらに進めることができた。洛南中学校ブロックではそれぞれの学校の特色を紹介し合い、何か1つ中心的な取組ができないかを校長間でも話し合うことができた。
- ・「複数の教職員で複数の児童に関わるという学校経営は、チーム学校としての総合力の発揮だけでなく、授業力や学級・学年経営力の向上、さらには、研修の活発化などにも連動するため、指導力向上の手立てとしても、今後に大いに期待できる。」という意見を受け、次年度の構想を全教職員と複数回にわたって話し合った。その結果、次年度は学年担任制にすることで、よりフットワーク軽く、支え合うことが本校の実態に合っているなどの共通理解が図れ、教職員が主体的に学校参画する姿勢が見られるようになった。

2 今後改善する点

- ・「自由進度学習の実施について、学校のねらいと保護者の受止めに開きがあるように捉えられた。保護者に丁寧に説明し、理解と協力を得る努力を求める。」という意見を受け、次年度は学校だよりやHPだけでなく、参観日や個人懇談を通じて積極的に取組を発信し、保護者への理解と協力を努めていく。
- ・「地域の諸資源を生かした様々な活動に敬意を表する一方、いわゆるオーバーロード気味といったところはないか懸念される。」という意見を受け、次年度は校務分掌の中に地域コーディネーターを設置し、地域と学校を無理なくつなぐよう働きかけていきたい。これにより、地域との窓口となっている教頭の業務負担軽減にもつながると考える。
- ・「各教室の後方のロッカー上に設置しているブックフォルダについて、PTAに購入をお願いして全校の取組になったと聞いた。PTAとの関係も良好だと感じた。」という意見を受け、今後も教育活動を広く理解してもらえよう努めるとともに、学校に関わりやすい活動を具体的に話し合うようにしていく。

学校評価のねらい

学校教育目標の達成に向けて、学校内外からの評価を実施し、児童の変容を見ることによって、本校の教育活動の進展と修正の資料を得て、地域社会に貢献する学校づくりを目指す。

評価の検討と実施		学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法	
中間評価	4	教育指導計画の作成	第1回学校運営協議会 ・学校教育目標の説明と承認	教育方針の発信 (学校だより・ ホームページ)
	5	学校評価実施に向けた企画 評価項目の検討		学校評価年間計画公表 (ホームページ)
	6			
	7	保護者アンケート 児童アンケート 自己評価の実施		
	8	評価結果の分析	第2回学校運営協議会 ・委員による評価 (学校関係者評価)	
	9	改善策・後期の方針の検討		結果・改善策の公表 (学校だより・ ホームページ)
	10			
	11			
	12	保護者アンケート 児童アンケート 自己評価の実施		
	1	評価結果の分析		
	2	次年度の方針の検討	第3回学校運営協議会 ・委員による評価 次年度の方針の説明	
	3	次年度の方針の共通理解		結果・次年度の方針の公表 (学校だより・ ホームページ)
年間評価				

令和6年度 臨時号

祥豊だより

TEL 075-691-2486

ひとりひとりの児童が活躍する学校づくり

～ 学校・保護者・地域が承認・心つながる学校を目指して ～

京都“1”美しい学校

令和6年10月11日
京都市立祥豊小学校
校長 森口 光輔

積極的に
発信中♪

令和6年度 学校教育目標

「ひとりひとりの児童が活躍する学校づくり

～ 学校・保護者・地域が承認・心つながる学校を目指して ～

京都“1”美しい学校

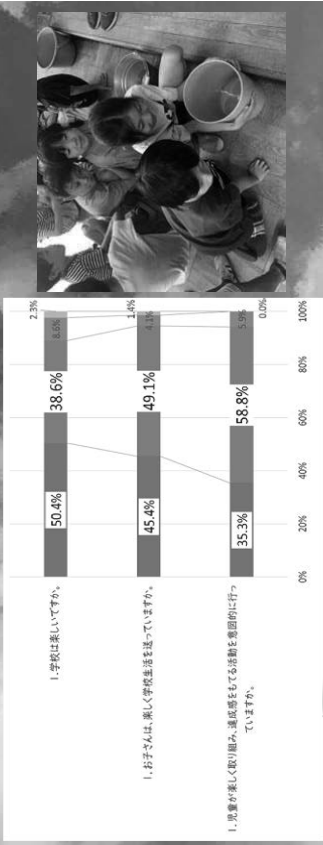
《目指すこども像》

○やってみる子

○自分も相手も大切にする子

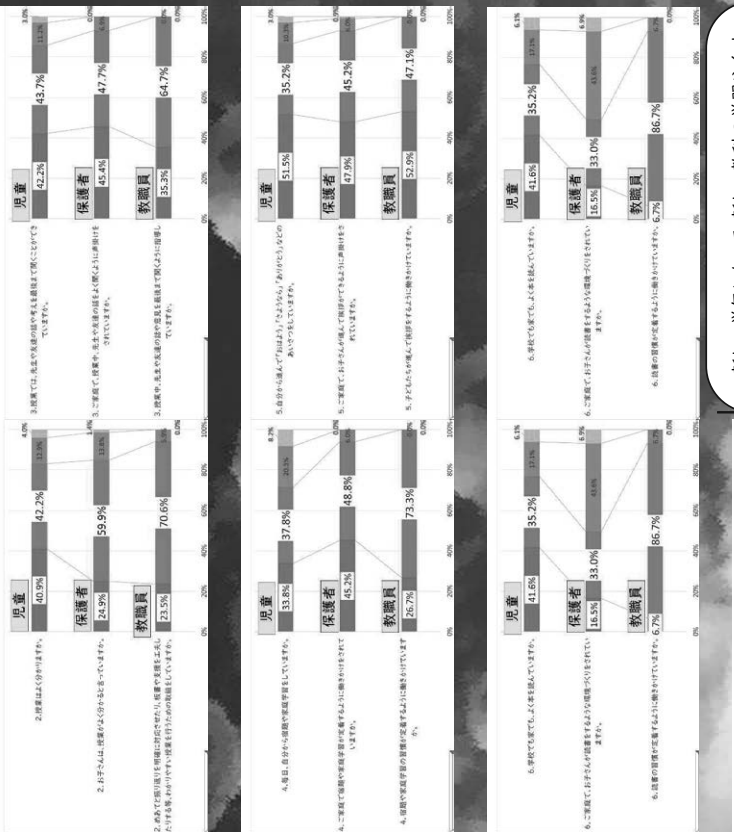
○思いや考えを伝え合う子

令和6年7月に実施いたしました第1回学校評価アンケートの結果がまとまりましたのでご報告させていただきます。



全ての子どもが『学校が楽しい』と感じられるように、子どもたちが主体的に活躍できるような取組の創出、学習が楽しいと思えるような授業の在り方の工夫や改善、友達とよりよく関わる事ができるような学級・学校経営、気持ちよく学校生活を送れるような環境整備を行っています。

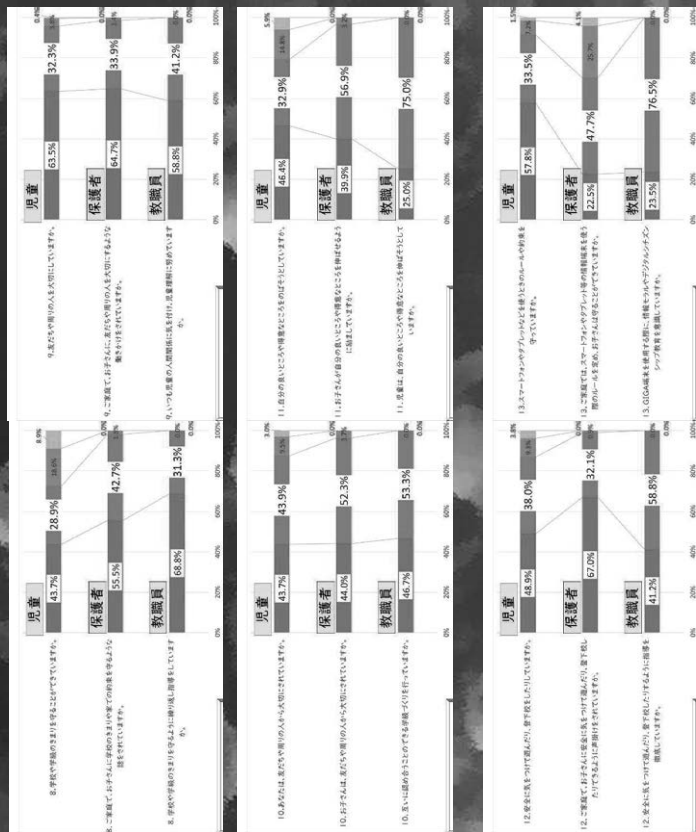
○やってみる子



新しい学年になって、新しい教科の学習や自由進度学習をはじめ複数の教職員による教科交換の授業、家庭での自主学習など、自分で課題を解決していく学習の仕方に少しとまどっている様子も見られます。授業の中で落着いて学習に取り組むことができるように、学年間や異学年間で課題を話し合い、学習の方向性を一致できるよう、努めてまいります。

一方で、『本を読む』項目に関しては、子どもの割合が上がっています。学級での読書指導をはじめ、図書館司書の取組や学校図書館の環境整備など、子どもたちが本を手に取りやすい環境・雰囲気作りができた結果かと思われます。ぜひ、お家でも声かけや読書をしやすい雰囲気づくりにご協力お願いします。

○自分も相手も大切にすること

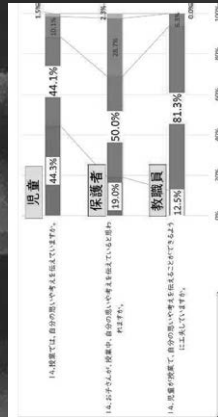


『きまりを守る』『安全に遊んだり登下校したりする』については、これからの学級指導や全体指導を行ってまいります。安心・安全な学校生活を送るために、今一度「学校のきまり」を一緒に見ていただき、ご家庭でもお話しください。

『友達・周りの人を大切にすること』『自分のよいところや得意なところをのびのびと表現すること』については、励ましている。この項目では、大人の尺度だけで見るのではなく、子どもの立場に立って考えることが大切ではないかと思われる。また、「励ます」として子どものやる気や優しさを促すことはとても大切なこと。よいところを「タイミングよく」「心に届く具体的な言葉」で子どもに伝えることで、自己肯定感を高め、自分も相手も大切にできる気持ちに向上できるよう関わってまいります。

『スマートフォンやタブレット（GIGA端末を含む）を使うルールや約束を守る』の項目では、児童と保護者で大きく差が開いています。情報化社会の現代において、ICT機器を上手に使うことで、利便性だけでなく、人との関わりや自己表現にも役立ち、ものを大切にしたりきまりを守ったりすることが相互に関係してモラル意識を向上させていきます。これから、よりよいICT機器の使い方を一緒に考えていきたいです。

○思いや考えを伝え合う子



児童と保護者の比較で、違いが見られました。保護者の方は、授業参観など限られた時間で判断されていることも原因の一つではないかと考えられます。子どもたちが自分の思いや考えを伝えるのは、一斉授業での発表だけでなく、ペアやグループでの話し合いなど、どの教科でもたくさんのお話があります。自分の考えを、相手を意識して言葉を選びながらアウトプットすることで、自分の考えを確かにしていきます。子どもたちが自信をもって「自分の思いや考えを伝えることができた」と思えるように、授業形態や意図的な話し合い場の設定など、誰もが授業に参加し、課題を解決できるように工夫していきたいと思います。

○児童が主体的に活動する学校

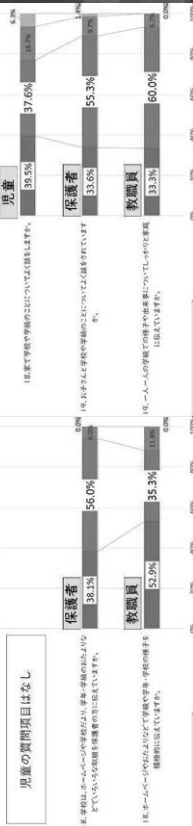
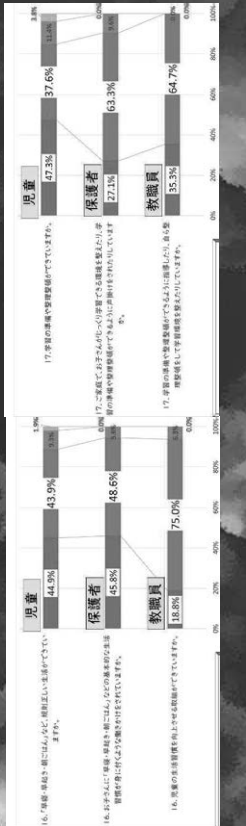


児童と保護者の比較で、違いが見られました。

学校では、給食当番や掃除当番などの活動、自主的に企画し学級全体に返す係活動、学校をよりよくするためにどうすればいいかを考え、常時もしくは自主的に活動する委員会活動などを通して、社会に関わり自己有用感を高める活動を行っています。5・6年生の家庭科の学習でも、「家庭での役割」をもつことが大切であることを学びます。ぜひお家でも、低学年の内から家庭での役割をしっかりとたもたせてください。そして、その役割を達成した時にしっかりと承認することで、次の生活や学習への意欲につながることがあります。

○凡事徹底（ルールをしっかりと守ることができる学校

○積極的に発信する学校



毎日のお家でのご準備やお声かけありがとうございます。基本的な生活習慣を身に付けることは、毎日のよいルーティーンを生み、心の余裕につながります。前述した「学校が楽しい」と全ての子どもが思うように、引き続き、気持ちよく学校に向かうことができる雰囲気をつくっていただきたいと思います。また、整理整頓については、学校教育目標「京都「I」,美しい学校」を達成するために、教職員全体で取り組んでいき、子どもたちにも声をかけていきます。「心」も「環境」も整え、気持ちのいい学校生活を送れるよう、常に意識していきたいと思っています。

ホームページや学校だより、学年・学級だよりの閲覧ありがとうございます。教職員のHP 発信数と保護者の方のHP 閲覧数が、「そう思う」「大体そう思う」の割合が大幅に上がっていることに関係していることがよく分かります。（令和6年度 9月27日現在の発信数2304件、アクセス数23078件）また、この結果が教職員のやる気にもつながり励まされています。今後も、引き続き取り組む様子や子どもたちの活躍する姿などを発信していきます。楽しみにしてください。

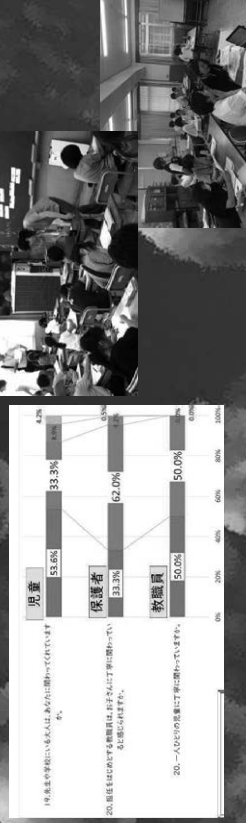
一方で、『家で学校や学級のことにについて話をする』の項目が、児童での割合が少なく感じます。HPでは表せきれない内容や様子については、子どもたちから生の声を聞きたいものです。子どもたちがお家に帰って「話したい!」と思えるような授業や活動などを少しでも増やせるように頑張っていきたいと思っています。

カテゴリ	
● TOP	
○ 学校教育目標・経営方針(1)	
○ 学校評価結果等(2)	
○ 学校沿革史(1)	
○ 学校の様子(166)	
○ 1年生(197)	
○ 2年生(250)	
○ 3年生(298)	
○ 4年生(306)	
○ 5年生(316)	
○ 6年生(272)	
○ 4組(18)	
○ 校庭より(384)	
○ 保護室より(6)	
○ 学校運営協議会(86)	

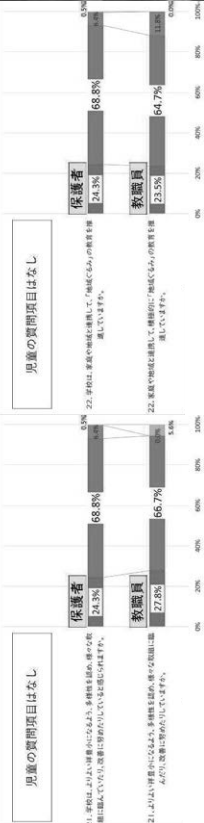
最新更新日：2024/09/27
 本日：113
 昨日：157
 2024年度：23078件

○積極的に承認する学校

○新たに学ぶ、改善に努める教職員



「そう思う」「大体そう思う」の割合が約87%以上である一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」の割合の児童や保護者の方がいるという結果に目を向け、一人一人のことを考えながら、しっかりと耳を傾けて関わり、迅速に解決することができるように努めていきます。子どもたちが「関わってくれた」ともっと実感できるように、全ての子どもたちについて、担任だけでなく学年間や異学年間、学校全体、時には外部機関とも共有し、全体の様子及び個々の子どもたちの様子を把握して丁寧に関わっていきます。



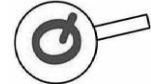
『学校・家庭・地域と連携して「地域ぐるみ」の教育を推進している』の項目では、「そう思う」「大体そう思う」が高い割合を示しています。町別での登校の見守りやPTAの活動をはじめ、様々な地域の方の活動を支えていただいたり参加していただいたりしているおかげとされます。これからもご協力よろしくお願いいたします。

また、『よりよい学習小になるよう、様々な取組に臨んだり、改善に努めている』の項目では、「そう思う」「大体そう思う」の割合が保護者・教職員が90%を占めている一方で、教職員の割合が100%になっておらず、意識の改革をさらに進めていきたいと思っています。

これからも、今まで培ってきたことを大切にしながら、教科交換・チーム担任制や自由進路学習など新しいことにもチャレンジしつつ、一人一人を大切に取組を進めていきたいと思っています。



○自由記述欄より



- ・プールの授業数が極端に少なくなかった気がします。
- ・水泳の授業を、学校ではなくスイミングスクールで行うことになった経緯やそれに伴う費用などについて、説明が不足しています。
- ・プールの授業がスイミングスクールになった変更事項について、きちんと理由を説明してほしいです。(説明してもらったこともありましたが、ないものもあったように思えます。)
- ・プール授業は何回あるのか、事前に教えてもらえたらありがたいです。

今年度は、スポーツプラザエースとの連携により、各学年2時間×6回を割り当てています。水泳学習は、学年ごとに時数が決まっており、それに準じています。昨年度末から、何度

も入念に打ち合わせを行い、日程調整や指導の仕方、送迎についてなどを話し合ってきました。教育委員会も含めた話し合いがざりぎりまで続いてしまし、詳しい詳細を十分に保護者の皆様にお伝えすることができず申し訳ございません。初めての試みのため、試行錯誤しながら子どもたちの様子に合わせて、改善している最中です。気にかかることがありましたら気兼ねなくご相談ください。

メリットとしては、天気や温度に左右されずに安心して確実に水泳学習を行うことができます。また、インストラクターがそれぞれのグループについて指導をするため、子どもたちは自分の泳力に合わせて主体的に学習に取り組むことができます。その際、担任は評価の観察や動きの指示に集中することができ、子どもにも声をかけやすい状況を作ることができます。また、準備や片付けなど環境整備面でも全面的にサポートされており、その分他の学習の準備や関わりに時間を割くこともできています。一方で、日程調整や担任とインストラクターの連携の仕方、水泳参加に関する連絡方法など、課題が見えてきた部分もあります。よりよい水泳学習となるように、今年度の取組を振り返り、次年度に生かしていきたいと思っています。



- ① チーム担任制や宿題のやり方など、新しいやり方について、きちんとした説明がないの不安が募る。
- ② (4・5・6年で行っている)けてぶれの効果がいまいち分らないです。家庭でのフォロー、促しも難しいです。



① 本校のチーム担任制は456年生で行っています。チーム担任制の最大のメリットは、これまでの固定的な学級担任制を脱し、複数の教職員が複数の児童に関わることで、児童と教職員が多面的な理解と多様な関わりで結びつく関係性を築き、学習指導・生徒指導をはじめとする学級経営の安定に努めることができる事だと考えています。

また、教科交換をどの学年も1〜3教科行い、児童理解はもちろんのこと、教員同士が学習規律や児童の成長を学び合うことで、互いに指導力を高め、児童の学力向上に繋げられるようにと取組をすすめています。

② 心配をおかけしてしまい申し訳ありません。「けてぶれ」とは、「計画・テスト・分析・練習」という学習のサイクルを指しています。目標に向かって、問題を主体的に解決していく力を、宿題の中でも身に付けていくことを目的としています。初めての取組で「何をしたいかわからない。」「したいことが分からない。」「あっているのか不安。」といった児童もいます。そういった児童には、個々に関わってやり方を一緒に考え、今まで通りの宿題のやり方も認めています。また、2学期以降も宿題の進捗を丁寧に把握するとともに、児童の取組に対してアドバイスを行うことで不安を取り除き、自信をもって臨むことができるとともに、児童の皆様に取組の方法や実態を積極的に発信し、学校と家庭とで連携して、子どもたちを支えていければと思います。一方で、「学ぶことが楽しくなった。」「学び方が分かった。」という声も聞かれ、実際にテストの点数が伸びたり、学習に対する姿勢が変わったりした児童もいます。全員に合う一律の学習方法を見つけることはなかなか難しいと思います。今後も、一人一人に合う学習方法を見つけれられるように支えていきますのでご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。



・授業の進め方を自由進捗にしたそうだが、保護者への説明がなく、子どももいまだに慣れず授業が分らないと毎日言っている。親がその分毎日教えたリ進捗を確認したりしないといけないので、すごく負担が増えた。授業中うろうろと歩く時間もあるので、長時間集中出来ない人間になりそう。とにかくこういう授業をして何を目標しているのか分からないのできちんと説明して欲しい。

「自由進捗学習」とは、子どもが自分のペースで進める学びのことです。一定のルールや約束事の下で、子ども自身が自分で学習計画を立て、様々な教材や資料を使ったり、一人やペア、グループで話し合ったりしながら自力で学びを進めていきます。現代の社会において、一人一人の興味・関心や発達状況などを踏まえ、それぞれの個性を伸ばし、個に応じた教育、学習環境を整えることが今まで以上に求められているため、最近注目されており、本校でも教職員が事前に計画を立案を立てて、チャレンジしています。



「自由進捗学習」を進めることで、子ども一人一人の困り事や学力の違いなどに対応しやすく、自分に合った内容やペースで学べるため、学習意欲や理解度が高まりやすくなります。自分なりに試行錯誤しながら学習を進めることで、「自己調整力」や「主体的な学びぶ力」が育まれると考えられます。

また、授業担当者にとっても、子ども一人一人の学習状況や理解度を細かく把握しやすくなります。一方で、事前の準備や単元計画など、綿密な見直しをもつことが重要なので、ここに時間を割いて計画・準備を行っています。GIGA 端末の活用も含め、自分が作った課題に向き合い、様々な方法を使って調べたり考えたりまとめたりし、自分の考えを表出・比較・総合することで、課題を解決できるように、全教職員でチャレンジしていきたいと思っています。



気になることがあれば、気兼ねなく担任又は授業担当者にご相談ください。





- ・雨の日にタブレットを持ち帰らせるのは、止めて欲しいです。濡れてしまう原因にもなりかねないので。
- ・タブレットを毎日持ち帰っているが、宿題を確認するのが、充電し利用していない。毎日重たいのに持ち帰る必要があるのだろうかと思う。



ご心配おかけして申し訳ありません。1人1台端末が配布されて3年が経ちました。現在取り組んでいる「KYOTO×教育 DX ビジョン」では、教育活動のあらゆる場面で子どもたちの主体的・積極的な活用が求められています。実際に本校では、高学年ではほぼ毎日活用しています。「令和の文房具」とまで言われている GIGA 端末をより効果的に活用していくために、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。現在は、1人1台お貸ししている GIGA 端末バッグに入れて持ち帰っており、雨の日はさらにランドセルの中に入れて濡れないような工夫をするなど、家庭への持ち帰りに関しては、安全に持ち帰ったり、臨機応変に対処したりできるよう、教職員で話し合っている方法を模索していきたいと思っています。



- ① 学校から発行される文書の日程の間違いが多いので改善してほしいです。発行責任者はもっと確認してほしいです。
- ② アンケートの4つの回答が、全部同じなのは答えづらいと言うか、意味が分かりづらいと思うので、改善してもらえたら良いと思います。
- ③ 山の家説明会について、配信日を変えたり変更点がある場合は子どもにも口頭で伝えるだけでなく「すぐー」を活用してすぐ連絡して欲しい。「すぐー」の活用が全くなされたいように感じる。
- ④ 卒業式での女子の服装について、学校から袴の禁止を指示していただきたいです。保護者の負担、大事な式典での子どもたちの差別を生まないためにも、ぜひともご検討ください。



- ① 発行文書の間違いに関して迷惑をおかけして申し訳ありません。また、間々まで読んでいただきありがとうございます。担当学年や担当者、管理職が確認はしていますが、日程の間違いがないようこれからも気をつけていきます。万が一訂正があった場合は、すぐに「すぐー」や HP などでご訂正を伝えさせていただきます。
- ② 学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございます。今回の学校評価アンケートは、学校教育目標にある「目指す子ども像・学校像・教職員像」に関わってアンケートを行っています。また、児童・保護者・教職員へのそれぞれの質問が連動するように内容を考えています。アンケート集計後、多大な情報量を分析するためにこのような回答（そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）として作成していることをご理解いただけたらと思います。また、思いを伝えにくい場合は、自由記述欄に遠慮なくご記載ください。
- ③ 現在、すぐーを活用して、週末の予定表や学校だより、緊急にお知らせしたいことなどを学校や担任などから発信させていただいています。また、毎日の欠席・遅刻・早退連絡や水泳学習の健康観察なども保護者の皆様から連絡いただき、業務の改善に生かされています。ありがとうございます。山の家の説明会を含め、急な変更などについてすぐーを十分に活用できていないかといったことについては、以後気を付けて、さらなる活用方法を模索していきたいと思っています。
- ④ 年度当初に、「華美にならなくても十分な卒業式になるように」と学年に声をかけています。ご理解・ご協力どうぞよろしくお願い致します。

その他、このようなご意見・ご感想がありました。（一部抜粋、中略あり）

- ・いつも子ども達の安全に配慮し、元気に帰宅させていただきありがとうございます。また、先生方や上級生学校全体で子供に話しかけてくださって毎日楽しく登校しています。
- ・いつも丁寧で柔軟なご対応ありがとうございます。今後もどうか、ご無理のない範囲で、ご支援いただけますと幸いです。引き続きよろしくお願い致します。
- ・校長先生がかわって、非常に親身になってくださるようになった。今まで、校長先生や教頭先生がかわったくらいに何が違うのか、と思っていましたがここまで変わるとは本当に有難い限りです。
- ・いつもとても気にかけて下さり、ご連絡して下さるのでとてもありがたいです。安心してお任せできます。今日学校でこんな事がありました、褒めてあげてくださいなど言って下さるのがとても嬉しいです。何かあればすぐご対応して下さい。お礼も不安なく過さず頂いています。
- ・ホームページで積極的な情報発信されていて、先生方の取り組みがわかるのはとても良いと思います。（積極的に見ている保護者は少ないかもしれませんが）子どもに対する学校の考え方も伝わります。制約が多い中ですが、更により良い学校になることを期待しています。
- ・参観やホームページを通して、子どもたちの様子が良くわかります。また、先生方の研修なども多くスキルアップされている印象があります。いつも子どもたちのために本当にありがとうございます。
- ・学校がより良くなるような活動をたくさんしていただいて、おかげで子どもが学校生活を楽しく過ごすごとができています。
- ・毎日ホームページを楽しみ拝見させて頂いております。子ども達が楽しく学校生活を送っている様子や学んでいる姿を見ることができ、自宅でも子どもと話しながら見えています。
- ・いつも子どもたちのことを思い、より良い学校生活が送れるよう学習環境や生活環境を整えてくださり、子どもたちも丁寧な関わりをしてくださりありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。良いところを見つけて褒めてくださったり、やる気にさせる声かけにより、本人も自分なりに考えチャレンジする姿勢が育っていると感じております。子どもたちのために本当にありがとうございます。
- ・毎日楽しく学校生活をおくらせていただいております。
- ・毎週金曜日の次週時間割が送られてくるときに、先生の色々な思いや決意が書いてあり、とても嬉しくなります。高学年になると、子どもたちが反抗的になったり、難しくなる中、褒めることが増えがちな先生が多いのに、先生はいつも前向きに接してくれていると感じます。
- ・漢検が学校で開催されなくなってしまうのが残念。希望者だけのものではあるが、学校で実施してもらえるのが非常にありがたい。本人のモチベーションにもなっていると思うので、ぜひ再開してもらいたいです。

まとめ

たくさんのご貴重なご意見ありがとうございました。今回の意見を参考に、一つずつ課題を解決していきたい。洋豊小になるよう教職員全員が一致団結して取組・改善を進めていきたいと思ひます。

また、子どもたちとの関わりや、学校教育活動の取組について、このような励ましの言葉は、教職員にとっても強力なパワーになり、子どもたちへ還元する源になります。今回の学校評価アンケートの結果を真摯に受け止め、これからの学校生活に生かしていきたいと思ひます。引き続き、学校教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、子どもたちの学校での様子やよりよい学校を創るための取組など、これからも随時ホームページにて発信させていただきます。時折見ていただけたらうれしいです。これからもご理解・ご協力どうぞよろしくお願い致します。（洋豊小 HP→）



令和6年度 臨時号

TEL 075-491-2486

京都「1」美しい学校

～ 学校・保護者・地域が承認・べつながる学校を目指して ～

「1」も「1」も「1」も

ひとりでひとりの児童が活躍する学校づくり

令和7年2月28日
京都市立桂葉小学校
校長 森口 光輔
校務主任 藤原 孝子

京都市立祥豊小学校令和6年度学校教育目標

「ひとりひとりの児童が活躍する学校づくり」

～ 学校・保護者・地域が承認・心つながる学校を目指して ～

京都“1”美しい学校

〈育成を目指す資質・能力〉
自ら学ぶ力（主体性）
相手を大事にする力（社会性）



○やっみる子

○自分も相手も大切にする子

○思いや考えを伝え合う子

令和6年12月に実施いたしました第2回学校評価アンケートの結果をご報告させていただきました。アンケートでは、学校として大切にしていることや保護者の皆様とともに取り組んでいきたいと考えていることについて、振り返っていただき、前回の結果と比較や課題への今後の取り組みについてお伝えさせていただきました。今後とも、本校教育活動にご理解・ご協力をよりお願いいたします。(前回：令和6年7月、今回：令和7年12月の結果より)

取組	前年	今年	保健者	前年	今年
1.学校は楽しいですか。	89.0%	↑ 90.4%	1.お子さんは楽しい学校生活を送っていますか。	↑ 94.5%	93.8%

「やう思う」「大それたと思う」の割合が、児童・保護者ともに90%を上回りました。2学期は、体育発表会、長期宿泊学習、児童会主催の洋巻まつりなど、大きな学校行事に取り組んだり、今まで培った力を生かし、どんどん学習に取り組んだりして、学校生活全体が充実したのではないかと考えます。児童の満足度をさらに向上させるべく、学校教育目標にもある「学校・保護者・地域が承認、つながる学校を目指して」による教育環境（＝京都「美しい学校」）をみんなで創り上げていきたいと思ひます。これからもご理解・ご協力よろしく願ひ致します。

○あつゐる子

項目	今年	前年	前年	今年	前年	今年	前年
2. 授業はよく分かりますか。	83.1%	↑	83.9%	↑	お父さん、授業がよく分かる と言っていますか。	84.8%	↑
3. 家庭で、授業中は、先生や友達の話をよく聞いて、うしろ指針ができていますか。	85.9%	↑	95.0%	↑	3. お家近くで授業中、先生や友達の話をよく聞いて、うしろ指針ができていますか。	93.1%	↑
4. 毎日、自分から宿題や家庭学習をしていますか。	71.5%	↑	88.6%	↑	4. お家近くで宿題や家庭学習が定着するように頑張っていますか。	94.0%	↑
5. 6. 学校で友達でも、よく本を読んでいますか。	86.7%	↑	93.3%	↑	5. お家近くで、子どもさんが進んで読書ができるように頑張っていますか。	93.1%	↑
7. 運動や外遊びをしていますか。	76.6%	↑	65.0%	↑	6. お家近くで、子どもさんの読書をするような環境がとられていますか。	49.5%	↑
			82.8%	↑	7. お家近くで、子どもさんの通塾に運動や外遊びをするように働きかけていますか。	82.1%	↑

「そう思う」「大体そう思う」の割合が、児童はほとんどの項目で大きく上っていました。その中で、【読書】に関しては、児童・保護者共に下回っており、①GIGA端末の活用によるデジタルエンターテインメントが読書の代わりになっている②忙しいスケジュールや他の活動の増加による読書に取り組む時間の減少③読書の魅力を感じにくくなっている、などの可能性が考えられます。学校では、読書週間の取組や図書館司書や学校ボランティアによる図書館の環境整備や魅力発信、国語科を中心とした学習での図書館の活用など、いろいろな観点から工夫を凝らしていきたいと思えます。

また、【自分から家庭学習をする】の割合が、児童で下回りましたが、これは、声をかけなくとも、自分から進んで行方カ（計画カ・自主性等）が定着してきている結果とも捉えられるのではと考えます。【授業で考えを聞く】⇒【自分から家庭学習をする】⇒【授業がより分かる】というよいサイクルを生み出しているよう、授業のあり方や家庭学習の工夫、児童への声かけ等を追究していきます。

○自分も相手も大切にすると

質問	今週	前週	変化	割合	今週
8. 学校や学級のまじりを守ることができていますか。	↑	72.6%	8. 家へ帰る。お友達に学校のまじりやまじりの約束を守るように話されていきました。	↑	98.1%
9. 友だちや周りの人を大切にしていますか。	↑	95.8%	9. お友達とお友達にまじりやまじりの約束を守るように話されていきました。	↑	100.0%
10. あなたは、友だちや周りの人から大切にされていますか。	↑	87.6%	10. お友さんは、友だちや周りの人から大切にされていますか。	↑	96.2%
11. 自分の良いことや得意なことをもっとしたいですか。	↑	79.3%	11. お友達のお友達の良いことや得意なことをもっとしたいですか。	↑	98.1%
12. 安全に気をつけて遊んだり、登下校をしていますか。	↑	86.9%	12. 安全に気をつけて遊んだり、登下校をしていますか。	↑	98.1%
13. スペースやオモイの約束を守っていますか。	↑	91.4%	13. スペースやオモイの約束を守っていますか。	↑	73.0%

「そう思う」「大体そう思う」の割合が、児童は全ての項目で上回りました。前回のアンケートの分析から、【まもりを守ること】を重点的に学校全体で意識して取り組むことで、この結果につながったと思います。そうすることで、自分も相手も大切にしている気持ちをもつことができ、自己肯定感や自己有用感を育くむことができるよ！これからも努めます。また、【スマホやタブレットのルール・約束を守る】の項目では、若干上回ったものの、まだまだ児童と保護者の差異が見られます。認識の違いや規則の理解度の違いが考えられる中、お互いのコミュニケーションを強化したり、現実的で守りやすいルール・約束の見直しをしたり、定期的にルールを確認し合って、褒めるべき点を話し合うことでモチベーションを向上させたりするなど、対策を立てて臨みます。

○思いや考えを伝え合う子

設問	前回	今回	係数増	前回	今回
14. 授業では、自分の思いや考えを伝ええていますか。	88.4%	↑ 80.5%	14. お子さんが、授業中、自分の思いや考えを伝えたいと思うはずです。	69.0%	↑ 64.8%

「そう思う」「大体そう思う」の割合が、児童・保護者共に下がっています。学習の中で、全体交流だけでなく、ペアやグループで話すことも自分の思いや考えを伝えることになります。授業内容によるディスカッションや発表の機会の減少、児童自身の考えを表現することに自分の自信の低下などが考えられるので、①授業の中で、確実な児童の考えを表現する場を提供する②授業内容や単元計画を見直し、児童が自分の思いや考えを表現しやすい環境を整える、といった取組を継続し、満足度を向上させていきたいと思います。

○児童が主体的に活動する学校

取組	前四	今四	継続率	前四	今四
15. 学校や家や自分の役割(委員会活動や自主活動)やお手伝いを通して学び動いていきますか。	88.4%	↑ 93.3%	15. おおさんに家の役割(手伝い)を決め、実行させていますか。	61.9%	↑ 59.4%

「そう思う」「大それた」という割合が、児童は70%を上回りました。各学級での係活動や高学年による委員会活動など、積極的に取り組んでいる姿が見られます。また、朝の「あいさつ隊」、放課後の「おそろい隊」の活動など、学校全体により影響を与えてくれています。さらに、12月に行った児童会主催の「神農まつり」では、高学年を中心に、企画、運営を見事にやり遂げられました。児童がより楽しみながら自主的に活動する機会を増やそうと、学校での支援や指導を効果的に発揮し、家庭での活動にも還元していきたいと思っております。

○凡事徹底（ルールをしっかりと守ることが）できる学校

○積極的に発信する学校

[illegible]

「そう思う」「大それた」との割合が、【ホームページやおたよりなどで学校の様子を積極的に伝える】の項目が、保護者で100%になりました。昔、小学校では、各学年が意識して、子どもたちの活動の様子を伝えるべくホームページの作成・更新を定期的に行っていました。2月11日の時点で、アクセス数37425件、各学年からの投稿数3991件となっています。学校の様々な取組を保護者・地域の皆様に伝えることで、学校のことをよく知っていただき、子どもたちと共に育むことにつながっていると考えます。また、ホームページだけでなく、子どもたちから直接「今日、学校でこんなことがあって楽しかった。」とお家の方に話せるような毎日にするために、日々努力していきたいと思えます。

○積極的に承認する学校

調査	前回	今回	経過	前回	今回
19. 先主や学校にいる大人は、あなたに関わってくれていますか。	86.9%	95.3%	↑		
20. 担任をはじめとする教職員は、子どもに丁寧に関わっていると感じられますか。	95.4%	93.8%	↓		

「そう思う」「大体そう思う」の割合が、児童は95%を上回りましたが、保護者は少し下がっています。日々日の学校生活の中で、学習の場面で、集団生活の場面で、個別のサポートや関心をより多く児童に届けたい結果と考えます。さらに、お家の方の高い期待に添えるべく、学校と家庭の連携を密にし、お家の方が、学校の取組を実感できるようにすることを大切にしていきたいです。

○新たに学ぶ教職員 ○改善に努める教職員

調査項目	前回	今回	数値	割合
21. 学校は、いかに学習になるよう、多様な生徒の、様々な知識に臨んでいく、改善に努めていますか。	↑	88.1%	21. により、学習の場となるよう、多様な生徒の、様々な知識に臨んでいく、改善に努めていますか。	93.8%
22. 学校は、家庭や地域と連携して、「地域ぐるみの」教育を推進していますか。	↑	88.1%	22. 家庭や地域と連携して、積極的に「地域ぐるみの」教育を推進していますか。	81.3%

「そう思う」「大体そう思う」の割合が、保護者・教職員共に前回より少し下がっていますが、【よりよい洋豊小】になるように取組に臨む、改善に努める】の「そう思う」の割合が前回より上がっています。失敗を恐れずに様々な取組にチャレンジしたり、課題を把握して改善に努めたことにより、教職員が自信をもって取り組むことが大きな一歩だと考えます。お家の方からのフィードバックを積極的に取り入れながら、コミュニケーションを取る機会を増やし、よりよい洋豊小学校にするために、これからも様々な取組に挑戦していきたいと思えます。温かい目で見守っていただきますようご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

また、ご協力いただいている学校ボランティア(図書・家庭科)や学生ボランティアの活動も少しずつ効果的に表れています。これからも、家庭や地域との関わりを意識し、「地域ぐるみ」の教育を推進できるように、教職員への周知、地域資源の活用、模索、教育活動や成果の広報、学校運営協議会との連携など、協力して教育プログラムを共に企画・運営していきたいと思います。



保護者の皆様の記事欄では、授業時間や学校行事、GIGA端末の活用、授業の進め方の課題についてなど、たくさんのご意見、ご感想をいただきました。これからも、ひとりひとりの児童が活躍する学校づくりを目指して、保護者の皆様、地域の皆様から一層信頼を得られるように努めます。これからもご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

<参 考>

京都市立大淀中学校における実践事例

○所在地 京都市伏見区淀下津町257番地の7

○生徒数 333名（令和6年5月1日現在）

○創 設 1975年（昭和50年）

○中学校ブロック

大淀中学校、明親小学校、美豆小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

令和6年度 大淀中学校 教育ビジョン

学校理念

- 1 学校は幸せになる方法を学ぶ所
- 2 生徒は未来を変えていく存在として育む

教育目的

大淀中学校で過ごす時間は 社会人になるための準備期間
複雑性や不確実性に適応するために、生徒も大人も多様な価値観をもち、変化に対応しながら新たな未来を創造できる人材を育成する

令和6年度 重点目標

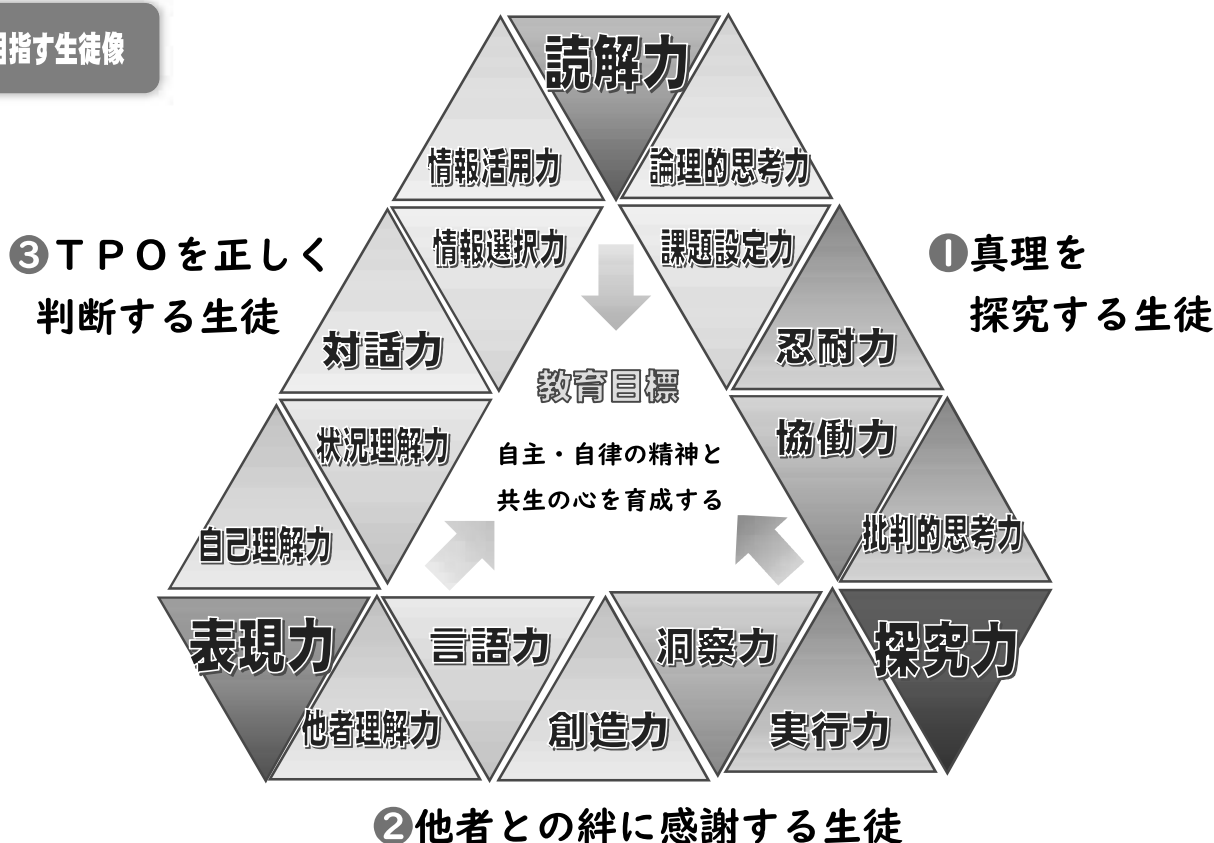
- 学力向上 *学プロ総合指数 100 を超える
自尊感情の向上 *アセスで学習適応感 40 以上を全体の 85%

目的に迫るために、未来の創造に向けた変革を起こすための資質・能力を基軸にした教育目標

*自主…自ら率先して行動する *自律…自分自身でコントロールをして行動する

*共生…多様な価値観が同じ場所で生活する

目指す生徒像



目指す学校像

- ① 目標に向かい、生き生きと一生懸命活動している学校
- ② 「学校が好き!」「学校が大切!」と言える学校
- ③ 心が通じ合え、信じ合っている学校
- ④ 「愛」と「絆」で結ばれ、魅力的で、愛着が持て、敬愛できる学校
- ⑤ 保護者・地域から期待され、信頼される学校

目指す教職員像

- ① “生徒のために”を合い言葉に、与えられた責任を、個々に持つ能力を最大限に発揮し、果たす教職員
- ② チームとして補い合い、高め合う教職員
- ③ 行動ありきの教職員
- ④ 自らの使命・存在意義を示すために、自らの課題を明確にし、日々研鑽に励む教職員
- ⑤ 生徒の長所を見つけ、伸ばせる教職員
- ⑥ 目標達成のため、自ら提案し、責任を持って実行する教職員

学校教育全体構想図

目指す生徒像

- ① 真理を探究する生徒 ② 他者との絆に感謝する生徒 ③ T P Oを正しく判断する生徒

育みたい資質・能力

- ① 探究力 ② 読解力 ③ 表現力

総合学習

■分野選択制における、縦割りグループによる探究活動

協同的な学び（協同学習）

- 「学ぶ価値を見いだす」→「学習方略」→「メタ認知」
を念頭に置いた教科授業
- S E Lを中心にした特別活動
- 体育大会・合唱コンクールの縦割り実施

個別最適な学び

特別支援

個別の指導計画
コミック会話
ソーシャルストーリー
修復的正義
コグトレ

あらゆる場面での「協同学習」と「個別最適な学び」

クラスのメンバー全員のさらなる成長を追求することが大事なんだと、全員が心から思っ
て学習する

学び合い・高め合い・認め合い・励まし合う

P B I S

望ましい行動の強化

M L A

学び続ける集団

品格教育

行動目標の明確化

ピアサポート

ピアを中心にした
教育活動

S E L

非認知能力の育成

授業研究体制

章末テストの実施

縦割り学校行事

C S time（午前中授業）

家庭学習の充実（自学自習ノート・デジタルドリル）

学年担任制

1 評価のねらい

学校教育目標「自主・自律の精神と共生の心を育成する」の実現に向けて、本校ではすべての生徒の全人的な育成を目指した包括的生徒指導プログラムであるMLA（マルチレベルアプローチ）を令和5年度より進めている。協同学習・SEL（社会性と情動の学習）・PBIS（ポジティブな行動支援）・ピアサポート・品格教育を軸として、生徒が学び合い・高め合い・認め合い・励まし合い、学び続ける集団の育成をねらいとしている。また、今年度からは、京都大学大学院と連携してパフォーマンス課題を通じた授業改革も行っている。これらの取組に対して地域・保護者・生徒・教職員から様々な機会をとおして評価を受け、教育活動に反映し、学校理念「学校は幸せになる方法を学ぶ所」「生徒は未来を変えていく存在として育む」に基づいた学校づくりを行う。

2 重点評価項目

（1）「確かな学力」の育成に向けて

学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた「育成すべき資質・能力」を明らかにし、教科など横断的な視点をもって学習指導・評価項目に基づく協同学習を実践する。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

SELを年間計画に基づいて実践し、品格教育・PBISを通して、自尊感情の向上を推進する。

（3）「健やかな体」の育成に向けて

心身ともに健康な生活を営むための基本的生活習慣の確立を図るために、CStime（選択制教育相談）を通して生徒の内面に寄り添った指導を行う。

（4）学校独自の取組

中学校の“目指す生徒像”に準じた小学校の“目指す子ども像”を明確にすることで、9年間を見通した育成を行う。

（5）教職員の働き方改革について

理論研修を通して、理論と実践を合わせもつことで、教職員一人一人の働きがいのある職場を醸成する。

3 評価項目の検討方法

- ・学校教育目標達成のために、目指す生徒像の再構築を行い、育みたい資質・能力を明確にした。それら達成度の指標とするために、現在の評価項目を設定している。
- ・これらの評価項目をもとに、学校運営協議会理事会にて、生徒の変容に注目しながら協議を行っている。
- ・生徒が変容しつつある今、育みたい資質・能力の変容があれば、項目を変更することも視野に入れている。

4 評価手法

- ・生徒、保護者、教職員へのアンケート調査（7月・12月の年2回）
- ・教職員出退勤システムの超過勤務時間集計結果
- ・保健室の来室状況
- ・全国学力・学習状況調査の実態調査アンケート結果
- ・学校適応感尺度（アセス）の結果（6月・10月・2月の年3回）
- ・学校評価に対する学校運営協議会理事からの検証結果

5 自己評価

（1）「確かな学力」の育成に向けて

目標数値と設定していた“学習確認プログラム総合指数100を超える”ことが2度であったが達成することができた。この結果は、京都大学大学院など外部と連携した授業改革が功を奏した。来年度は、より連携を深め、学習適応感尺度（アセス）にて目標数値を超えるように取り組みたい。また、総合学習の抜本的改革を行い、育みたい資質・能力にコミットした学習を展開していきたい。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

多くの項目で許容範囲内であるが、低学力の生徒が授業不適應を起こしやすい傾向にある。したがって、学びたくなる授業の構築に向けて、SELの学習年間計画を再検討することによって、生徒の自己理解・他者理解・状況理解の再構築を図り、協同学習がより機能するように行っていく必要がある。

（3）「健やかな体」の育成に向けて

P T Aの家庭教育学級などを通して子育て啓発を主訴にした研修会を充実させていく。また、振り返りを通した教育活動を行うことによって、生徒が自らの力で社会参画できるような力を養っていききたい。そのためにも、MLAのさらなる質的向上を目指していきたい。

（4）学校独自の取組

目指す生徒像（真理を探究する生徒、他者との絆に感謝する生徒、T P Oを正しく判断する生徒）について教職員間の共通認識を図るため、学校教育ビジョン・学校教育全体構想図について再確認し、毎月の職員会議にて理念の唱和を実施していく。そのことで、カリマネに即した授業展開につながり、生徒の学ぶ力の向上につなげていく。今後は、大淀中ブロック小中で一貫した目標設定を明確にしていく必要性を感じる。

（5）教職員の働き方改革について

超過勤務は横ばいの状態が続いている。現在、学校改革時であることで、その分の業務が増加していることも背景の一つとして考えられる。週1回の教職員で定めた退勤時刻の徹底を行っているが、家庭訪問などの業務については避けられない現状があり、依然として課題が残る。

6 学校関係者評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

生徒や保護者のアンケート結果が改善されているところが評価できる。学力向上ともリンクしているので継続して授業改革を行ってほしい。学校運営協議会としても、小中の連携や地域・家庭への働きかけ等協力できることは引き続きしていきたい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

数値だけを見ると悪化しているように感じたが、アセスの生活満足感が改善傾向にあることが分かったので安心できた。地域でも品格教育のポスターを掲示するなど、一緒になって取り組んでいきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

早寝早起き・朝ごはんの習慣・ケータイ・スマホの使用ルールは全てリンクしている。地域として、パトロールや地域啓発などで協力できることはしていきたい。また、遅刻している生徒を見かけることが多いので声掛けなどが出来ればよいと考えている。

(4) 学校独自の取組

小中連携の一つとして、小学校6年生へ中学校入学までに課題を渡し、入学後に補習などをして中学校の授業についていけるようにする取組はいいと思う。小学校の先生にとっても中学校入学までに最低限つけさせる力として意識付けになる。

(5) 教職員の働き方改革について

学校として退勤時間を設定していることはいいことだと思う。教員の超過勤務の実情について機会を捉えて保護者や地域に知っていただくための支援を引き続きしたい。部活動など地域で支えられることも考慮していく必要がある。

7 ICT化の推進や働き方改革の推進、コロナ後の学校運営等、社会変容に応じた取組内容 (学校評価の実施に際して)

- ・保護者連絡ツールにより、様々な連絡事項を周知徹底することができた。
- ・web上のフォームでの回答様式に変更したが、逆に大幅に回答率が下がった。プリントの方が高い回収率にあるので、今後もプリントでの回答で対応する。
- ・学校適応感尺度などデータによるアセスメントができるようになり、今後の方針に活用しやすくなったことで、課題によりコミットした教育活動が実践やすくなった。

8 総括・次年度に向けた課題等

令和4年度から学校改革に着手し、令和5年度よりMLAを本格実施する中、一定の成果が表れてきた。目指す生徒像である「真理を探究する生徒」「他者との絆に感謝する生徒」「TPOを正しく判断する生徒」の育成に向けて足がかりができたと感じている。

学習確認プログラムの指数も10年ぶりに入学時より上昇したが、根幹の部分の改善はまだ道半ばである。実際、今年度の学校評価では後期になり課題が見えてきており、例えば子どもが主体的に学ぶ姿には課題が残る。来年度からは、学級担任制や総合学習のゼミ方式という大きな取組が行われる。MLAで培われた集団性を活かして、そこに探究活動を組み入れていくことで、根幹部分からの改善を図っていきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・「カリキュラム・マネジメントのさらなる習熟がポイントになる」という意見を受け、来年度から始める総合学習ゼミ方式について、資質・能力に則した年間計画を立案した。
- ・「地域の大人と生徒が交流する機会が少ないように感じられたので、今後は、生徒と地域が交流する機会を積極的に設けてほしい」という意見を受けて、1年生で実施していた地域調べを、来年度から淀探究として、地域の活性化のためのアイデアを提案する探究学習を立案した。また、学区内のJRA、伏見区役所、ケイコン（株）などの企業理念に基づく探究活動を実施することで、地域の大人との関係を能動的に築いていく関係を育んでいく。
- ・「教師自身が本当にその学びの面白さを実感できていることが大事」との意見を受けて、各教科会で教科の魅力について話し合い教職員研修でプレゼンした。プレゼン内容を元に、他教科からの意見を交流することで来年度の単元計画に反映させている。

2 今後改善する点

- ・「一部のアンケート項目に、質問の中に二つの評価要素が含まれている問いがあり、回答者が適正に答えられているどうか、懸念される質問がある」との意見を受け、学校評価アンケートの質問文を変更し、来年度の学校運営協議会理事会に提案する。
- ・「端末を使用した授業の中で、先生の指示とは違う場面を見る生徒などの姿が多く見受けられた」との意見を受け、来年度は「生徒にとって有益なデジタル化」ということを議論の柱として学力向上プロジェクトチームで検討をしていくようにする。
- ・「学校運営協議会が学校評価にどのように関係したか、その点を示すデータが乏しく読み取りが難しかった」という意見を受け、学校評価への学校運営協議会の関わりについて学校だよりを通じて詳しく掲載していく。
- ・「課題解決にあたっては、小学校との連携は欠かせないが、学校経営方針をみてもその視点は弱い」という意見を受け、ブロック内の小学校長と資質・能力の向上に向けての現在の子どもたちの課題を明確にすることによって、中学校で行っている取組を小学校で実施できないかを協議していきたい。また、小学校と共通する学校運営協議会の理事の人数を拡大し、より小中連携の視点からの意見を反映させることにより、課題解決に向けて9年間の視野で実践できるようにしていきたい。

学校評価のねらい

- ① 学校・生徒・家庭・地域の4者が、各々の立場での責任を明確にして検証するための自己評価の場とする。
- ② 相互に研鑽し、努力し、支援しあえる学校作り・地域作りを目指すための学校運営の貴重な資料とする。
- ③ 年間の成果や課題を分析し、考察を学校だよりやHPに公開し、開かれた学校づくりをするための資料とする。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	・教育指導計画作成 ・学校評価計画検討		学校だより（教育方針の発信） 評価年間計画をHPに公表 前年度の評価計画をHPに再掲
	5	・PTA役員会での学校評価実施説明	・第1回学校運営協議会 ・教育指導計画説明と承認 ・学校評価説明	
	6			
	7	・7月生徒アンケート ・7月保護者アンケート ・7月教職員評価		
	8	・7月学校評価分析（教職員研修会） *後期に向けた課題と成果		
	9		・第2回学校運営協議会 *中間評価実施	・学校だより、HPにて結果、改善策を公表
	10			
	11			
年間評価	12	・12月生徒アンケート ・12月保護者アンケート ・12月教職員評価		
	1	・12月学校評価分析 *次年度に向けた課題と成果 ・次年度への改善案等方策の検討		・学校だより、HPにて結果、改善策を公表
	2		・第3回学校運営協議会 *年度末評価実施	
	3			

大淀中だより

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校
学校だより⑤

令和6年(2024) 8月28日
校長 川上 貴由

学校教育力向上に向けたアンケート結果

7月に行われました三者懇談の際に実施した「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答の結果をお知らせいたします。今年度は208名の方々からの回答を得ることで詳細に分析することができ、大変ありがたう感じました。アンケートの御協力ありがとうございました。学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。生徒アンケートの結果につきましては、次号以降でお伝えいたします。*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数を合わせた割合になっています。

令和5年度「後期」と令和6年度「前期」との比較				
※令和5年度後期より上がった(↑)				
※令和5年度後期より下がった(↓)				
設 問	R5	R6		
①子どもは安心して楽しく学校に通っている	93%	93%		
②学校の雰囲気がよく、生徒がいきいきと活動している	93%	97%↑		
③学校の様子が、学級・学年・学校だよりやホームページなどでよく分かる	94%	93%↓		
④学校は、生徒の人間性や人権を尊重した接し方ができている	96%	95%↓		
⑤学校は生徒指導上の問題を見逃さず対応できている	92%	91%↓		
⑥学校は、保護者からの連絡や相談に迅速且つ適切に対応している	97%	97%		
⑦学校行事の時期は適切である	96%	97%↑		
⑧学校では、楽しく、わかりやすい授業が行われている	90%	92%↑		
⑨家庭では学校の話題など、子どもとコミュニケーションが図れている	87%	90%↑		
⑩子どもはよいところをほめるなどして、自信を持たせるようにしている	87%	91%↑		
⑪家庭では社会のルール、規範意識の高揚に努めている	93%	97%↑		
⑫子どもは家庭では早寝・早起きに心がけている	60%	73%↑		
⑬子どもと将来の夢や生き方について、できるだけ会話している	87%	84%↓		
⑭子どもは、朝ご飯を毎日きちんと食べている	89%	92%↑		

子どもたちの今と未来のための社会のあらゆる場で

【京都はぐくみ憲章】を実践しましょう!

京都はぐくみ憲章

設 問	R5	R6
⑮ケータイ・スマホ・メールなどの使用ルールを決めている	62%	74%↑
⑯子どもは朝タの校温など健康観察をしっかりと行っている	53%	49%↓
⑰子どもには基礎的・基本的な知識や技能、学力がついてきていると思う	75%	72%↓
⑱子どもは、先生と気軽に相談できる	96%	95%↓
⑲子どもは家庭学習習慣は定着し、自学自習ができている	55%	52%↓
⑳子どもはハンカチを携行している	55%	55%

今年度の回答数は、全家庭数の70%を得られているため、より実態に近い状況を表していると考えていますが、より多くの回答を得られましたら信頼性が高くなりますので、12月の三者懇談でも、御協力をお願い致します。

「子どもは安心して楽しく学校に通っている」の項目については変化がなかったものの、「学校の雰囲気がよく、生徒がいきいきと活動している」では、昨年度以上に向上し、97%の肯定的ご意見を頂くことができました。学校改革に取り組み3年目を迎える中、私達が取り組んできたことが評価され嬉しく思います。しかし、「学校は、生徒の人間性や人権を尊重した接し方ができている」「学校は、保護者からの連絡や相談に迅速且つ適切に対応している」の項目については若干ながら肯定的意見が減少しています。教育の基盤は、教職員の生徒理解にありますので、数値としては90%を超えているものの、この結果を

重く受け止めます。生徒一人ひとりのことをしっかりと見ていきながら今後の教育活動に取り組んでいきたいと思えます。「学校の様子や、学級・学年・学校だよりやホームページなどでよく分かる」の項目についても若干下がっていますが、本校の学校ホームページにつきましては日々更新しており、毎月の行事予定も確認することができます。「大淀中学校」で検索していただき、活動の様子をご覧頂きたいと思います。

学習面については、昨年度に引き続き課題が浮き彫りになっています。「子どもには基礎的・基本的な知識や技能、学力がついてきていると思う」「子どもの家庭学習習慣は定着し、自学自習ができている」の項目において低い数値を示しています。一方、「学校では、楽しく、わかりやすい授業が行われている」は92%と昨年度以上に高い数値を示しているため、授業で学んだことを定着させることに課題があると考えます。したがって、生徒が家庭でも学習したくなるような授業改善をさらにすすめていく必要を感じます。現在、京都大学に参画していただき「ファーマンス課題」という授業研究を行っています。これは、様々な知識やスキルを統合して使いこなすことを求めるような複雑な課題です。知識をただ暗記するのではなく、知識を活用することを目的としており、このことで生徒の学習に対する意識を向上させたいと考えています。今年度より2年計画で取り組んでまいりますので、生徒の学習意欲の向上につなげていきます。

「家庭では学校の話題など、子どもとコミュニケーションが図れている」「子どものよいところをほめるなどして、自信を持たせるようにしている」「家庭では社会のルール、規範意識の高揚に努めている」の項目で数値が向上しています。私は、子育てに大切なことは親の安心だと考えています。しかし、現代社会は、情報量の膨大から子育てに不安を抱える家庭が多いという結果があります。その中にも関わらず、肯定的意見が増えているということは、各家庭で親が努力している証だと感じ、大変頭が下がる思いです。今年度も PTA 主催の家庭教育学級が開催されます。ここでは、親の自分理解をテーマに話し合うものです。開催時期が決まりましたら、ご案内を差し上げますのでぜひご参加下さい。

部活動 試合(コンクール)結果
今年度は、2名の生徒が京都開催で行われた近畿大会に出場しました。夏季大会で引退える3年生もいます。

最後の大会・コンクールとなる中で、各部とも精一杯プレー・演奏している姿が感動的でした。大会の詳細は、学校ホームページに掲載していますのでご覧ください。
【近畿大会出場】

水泳部 H.Hさん(2-4) 女子100m・200m平泳ぎ	
京都府中学校総合体育大会	
100m 第4位 200m 第2位	
近畿中学校総合体育大会 出 場	
水泳部 N.Cさん(2-2) 女子50m自由形	
京都府中学校総合体育大会	
50m 第6位	
近畿中学校総合体育大会 出 場	

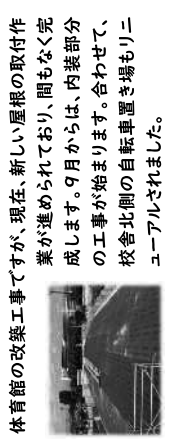


【市内大会の主な結果】
(柔道) T. Kさん(2-3)夏季大会 第3位(府大会出場)
(吹奏楽部) 京都府吹奏楽コンクールAの部 銅賞
(女子バスケットボール部) 市内大会ベスト16
(男子バスケットボール部) 市内大会ベスト16
(男子ソフトテニス部) 団体戦 回戦敗退
(女子ソフトテニス部) 団体戦 回戦敗退
(バレーボール部) 市内大会 1回戦敗退

※その他の競技については、6・7月号に掲載しています。

(生徒会取組) リーダー研修会

7月25日(木)にリーダー研修会が実施されました。これは、生徒会本部が中心となり大淀中学校をリーダーとして引っ張っていく中間の育成です。今年度より、体育大会と合唱コンクールを合わせて、水城祭として実施します。午前中は、水城祭のキャッチフレーズを考えて、午後からは地域生徒連絡協議会主催のヒューマンタイム(12月開催)でもお世話になっているワーキングショップを行いました。各クラスの評議員や、リーダーを目指す有志の生徒が参加して活発に議論が行われました。



体育館の改築工事ですが、現在、新しい屋根の取付作業が進められており、間もなく完成します。9月からは、内装部分の工事が始まります。合わせて、校舎北側の自転車置き場もリニューアルされました。

大淀中だより

京都府立大淀中学校
学校だより⑥
令和6年度(2024) 9月26日
校長 川上 貴由

学校教育目標 「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

学校教育力向上に向けたアンケート結果（生徒回答）

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介いたします。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。

※数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

子どもたちの今と未来のため社会のあらゆる場で
「京都はくぐみ憲章」を実践しよう!

令和5年度「後期」と令和6年度「前期」との比較
※令和5年度より上がった(↑)
※令和5年度より下がった(↓)

設問	R5	R6
①学校生活は全般的に楽しく過ごせている	87%	90%↑
②友達と仲良く過ごせている	94%	94%
③困ったときに相談できる友達がいる	81%	89%↑
④学校行事を前向きに取り組めている	88%	88%
⑤自らすすんで挨拶ができています	71%	86%↑
⑥学校のルールは守れている	86%	92%↑
⑦授業は楽しい	61%	72%↑
⑧授業はわかりやすい	68%	80%↑
⑨学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい	84%	84%
⑩授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	71%	79%↑
⑪自分にはいいところがある	67%	71%↑
⑫将来の夢がある	60%	72%↑
⑬地域の行事には積極的に参加している	32%	66%↑
⑭自分の住んでいる町に愛着を持っている	65%	83%↑
⑮早寝、早起きを心がけている	53%	74%↑
⑯朝ごはんを毎日食べている	80%	90%↑
⑰予習復習をきちんとできている	48%	59%↑

●●学校生活について●●

関連する項目に見られますように、すべての項目で、昨年度と同程度または上昇しています。数字としては、多くの生徒が学校生活に対して肯定的にとらえており、充実した学校生活を送っていると考えられます。その背景には、昨年度より取り組んでいるMLA（包括的生徒指導）が、生徒になじんでいるものと推察しています。

また、学習に関する項目も上昇しており、教職員の授業改善により、生徒が学習に対して主体的に取り組んでいるのではないかと分析しています。しかし、設問⑩「文章の読解力や作文・発表等の表現力が増してきた」については課題が残るものの、今年度より、京都大学の参画のもとパフォーミングス課題という授業改善の取組が続いていますので、今後も教職員一丸となって取り組んでいきます。

★★自尊感情について★★

①の設問「自分にはいいところがある」②の設問「将来の夢がある」は、昨年度まで60%台が続いていましたが、70%台まで向上しました。これらの結果は、教職員一人一人が生徒理解を深めると共に、生徒自身の自己理解

が進んでいることが背景にあると考えられます。また、MLA（包括的生徒指導）における、SELの授業や、PBIS（幸せの花束カード）、協同学習の取組の成果とも捉えています。

また、今回のアンケートでもっとも数値が向上したのは、設問③「地域の行事には積極的に参加している」です。前回の倍近く向上しています。それに伴って、設問④「自分の住んでいる町に愛着を持っている」も80%台に上昇しました。これらは、流連自治会や流連連合自治会の皆さんによる「地域調べ」の御協力や、地域の掲示板に、本校の取組の1つである大淀十二階がスター掲示の御協力など、1つ1つの取組の成果だと考えています。本校の生徒は、定の宝でもあります。生徒の健全育成の視点でも学校教育を進めていきたいと考えています。

秋季(新人大会)が始まりました

9月14日(土)の陸上部を皮切りに、部活動の秋季(新人大会)がスタートしました。この大会から、1・2年生を中心に試合になります。ここまで開催された大会結果をお伝えします。

【陸上部】
Y. Yさん(2-3) 男子砲丸投 第5位
(自己ベスト更新選手)
S. Cさん(2-4) 男子200m
Y. Mさん(1-3) 男子800m
S. Mさん(1-4) 男子100m
O. Mさん(1-5) 男子200m



【水泳部】
N. Cさん(2-2)
女子50m自由形 優勝
女子400m自由形 第3位
H. Hさん(2-4)
女子200m平泳ぎ 優勝
女子100m平泳ぎ 第2位
D. Rさん(2-3) 男子50mバタフライ 第5位



【男子ソフトテニス部】
(団体戦予選リーグ) ※2位で決勝トーナメント進出
対近衛中 0-3
対桃山中 2-1
対京都大原学院 2-1

【サッカー部】
(予選リーグ実施中)
対西ノ京中 1-2
対洛星中 1-6



第28回 淀南夏祭り

8月24日(土)に、美豆小学校で第28回淀南夏祭りが行われました。短い準備期間の中でしたが、吹奏楽部が演奏しました。最後は、学園天國を演奏し、大いに会場を盛りあげました。吹奏楽部は、9月29日(日)に淀南敬老のついで、10月3日(木)にPSTクリーンキャンペーンと様々なところで演奏を披露します。



1組合同科学センター学習

9月2日(月)に、1組が科学センターで行われた「合同科学センター学習」に参加しました。競馬場前からバスで現地向かい、伏見区の学校が数校集って、光りについての実験、プラネタリアムなどの学習をしました。

11月22日には、育成合同運動会が行われます。1組の一致団結した力を発揮して欲しいと思います。



第71回 淀体育カーニバル

9月23日(祝)に、淀体育カーニバルが、秋晴れに恵まれた中で、6年ぶりに開催されました。開会式が行われたイベントホールで吹奏楽部が演奏し、立派な華を添えました。GIのファンファールの演奏には、京都競馬場の場長さんも感動されていて、実際の競馬レースでも演奏できるか考えてみたいとおっしゃっていました。



高校の先生による出前授業

9月11日(水)に授業参観を行いました。多数の保護者に来校いただき誠にありがとうございました。3年生の授業では、洛水高校の先生方と京都翔英高校の先生方に出前授業をして頂きました。進路選択が迫っている3年生に、実際に高校の授業を体験してもらったことにより貴重な体験となりました。



京都市立大淀中学校
学校だより⑩
令和7年（2025）1月29日
校長 川上 貴由

学校教育目標 「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

（第2回）学校教育力向上に向けたアンケート結果

12月に行われました三者懇談の際に実施した「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答（回答数159）の結果をお知らせいたします。前期より回答数が50人程度少なくなりました。学校教育力を向上させるためには回答数が多いほど今後に活かすことができますので、来年度以降も御協力を賜りますようお願い致します。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。 ※生徒の結果については次号で掲載させていただきます。

※数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数を合わせた割合になっています。

令和6年度「前期」と令和6年度「後期」との比較

※令和6年度前期より上がった（↑）

※令和6年度前期より下がった（↓）

設 問	前期	後期
①子どもは安心して楽しく学校に通っている	93%	93%
②学校の雰囲気がよく、生徒がいきいきと活動している	97%	89%↓
③学校の様子が、学級・学年・学校だよりやホームページなどでよく分かる	93%	92%↓
④学校は、生徒の人間性や人権を尊重した接し方ができている	95%	91%↓
⑤学校は生徒指導上の問題を見逃さず対応できている	91%	90%↓
⑥学校は、保護者からの連絡や相談に迅速且つ適切に対応している。	97%	96%↓
⑦学校行事の時期は適切である	97%	90%↓
⑧学校では、楽しく、わかりやすい授業が行われている	92%	91%↓
⑨家庭では学校の話題など、子どもとコミュニケーションが図れている	90%	90%
⑩子どもはよいところをほめるなどして、自信を持たせるようにしている	91%	86%↓
⑪家庭では社会のルール、規範意識の高揚に努めている	97%	93%↓
⑫子どもは家庭では早寝・早起きに心がけている	73%	61%↓
⑬子どもは将来の夢や生き方について、できるだけ話している	84%	78%↓
⑭子どもは、朝ご飯を毎日きちんと食べている	92%	79%↓

と思う」「子どもの家庭学習習慣は定着し、自学自習ができていいる」においても上昇傾向にあります。入学の時点で九九やアルファベットなど基礎的な力に課題を抱える生徒も多いため、今後は、放課後補習など小学校での履修内容について復習する時間が必要だと考えています。授業については、京都大学との連携を来年度も継続していきます、教員の授業力向上をさらに推し進めていきます。

□■家庭生活について■□

家庭の状況をお聞きする項目では、ほとんどの項目で数値が下がっています。思春期に差し掛かる中学生の時期は子育てに難しさを感じている時期でもあります。PTAでは、家庭教育講座を通して子育ての方法についての研修を行っています。来年度も実施していく予定ですので、お時間が許す限りご参加下さい。

マスク着用について

12月はインフルエンザが流行し、2年生を中心に学級閉鎖の措置を行いました。現在、ピークは過ぎているものの、インフルエンザB型の感染がこれから危惧されるところで。特に、3年生は受験シーズンを控えており、兄弟姉妹関係からの感染も心配しています。3年生に限らず、1・2年生においてもマスク着用などの感染予防につきまして御協力をお願い致します。

★★大淀カフェ大盛況★★

23日（木）に大淀カフェを開催しました。1組の生徒がメニューを考え調理し、接客対応を学ぶというものです。明親小、美豆小の児童も来店しました。メニューも豊富で、どれを選ぼうか迷ったほどです。接客対応もいねいに行うことができました。当日は、多くのお客様が来られ、心温まるひとときとなりました。とてもおいしかったです。

初めての堂々3位入賞！

バスケットボール協会主催の、京都府中学校バスケットボール新人大会において、女子バスケットボール部が初めての3位入賞を果たしました。予選リーグを2位で通過して決勝トーナメントに進出し、目標のベスト4を達成しました。おめでとうございます。準



決勝で惜しくも敗退したものの賞状をもらうことができてした。春の京都市大会において、これからも頑張つて欲しいと思います。

【決勝トーナメント】
 (2回戦) 対 東輝中学校 76-30
 (3回戦) 対 緑部中学校 74-36
 (準々決勝) 対 木津中学校 45-24
 (準決勝) 対 修学院中学校 24-45 3位入賞

2月5日は「京都はぐくみ憲章の日」

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にしたい。子どもを見守り、養い、時には叱り、共に成長していくことが求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で臨む必要があります。

子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範として2007年2月5日に「京都はぐくみ憲章」が定められました。

本校でも、引き続き保護者や地域の皆さんと連携し、子どもを真ん中に置いた教育活動を推進していきます。

京都はぐくみ憲章

～子どもと共に育む京都市民憲章～

わたしたちは、

- 一人子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 一人子どもから信頼され、規範となる行動に努めます。
- 一人子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学ぶ仲間を築きます。
- 一人子どもが安心して育つ、家庭の生活習慣と家庭の絆を大切にします。
- 一人子どもを愛する人、人と人が交え合う地域のつながりを広げます。
- 一人子どもが育む自らの進みを大切に、社会の発展づくりに貢献します。

令和7年2月5日（土）

京都はぐくみ憲章

2月15日（土）13時～14時の日程で、藤ノ森小学校にて「第30回 ふしみ人権の集い」が開催されます。和太鼓の演奏や「響け！人権、広がれ！反差別、届け！平和」をテーマに記念講演が行われます。

京都市中学校生徒書き初め展

1月13・14日に京都市総合教育センターにて、第92回京都市中学校生徒書き初め展が行われ、本校の6名の生徒作品が展示されました。

【選出された生徒】

1年2組 T.Yさん

1年4組 Y.Rさん

2年1組 U.Kさん

2年1組 N.Mさん

2年2組 T.Cさん

2年3組 Y.Mさん

大淀中だより

京都府立大淀中学校
学校だより①
令和7年(2025)2月21日
校長 川上 貴由

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

(第2回) 学校教育力向上に向けたアンケート結果 (生徒回答)

前号で掲載いたしました「学校教育力向上に向けたアンケート」の保護者回答に引き続き、生徒回答の集計結果を紹介いたします。この結果につきましては、学校運営協議会・教職員と共有し、今後の学校改善につなげて参ります。

*数値は「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した人数をあわせた割合になっています。

令和6年度「前期」と令和6年度「後期」との比較			
※令和6年度前期より上がった(↑) ※令和6年度前期より下がった(↓)			
設問	前期	後期	
① 学校生活は全般的に楽しく過ごせている	90%	85%↓	
② 友達と仲良く過ごせている	94%	92%↓	
③ 困ったときに相談できる友達がいる	89%	83%↓	
④ 学校行事を前向きに取り組んでいる	88%	86%↓	
⑤ 自らすすんで挨拶ができています	86%	69%↓	
⑥ 学校のルールは守れている	92%	83%↓	
⑦ 授業は楽しい	72%	70%↓	
⑧ 授業はわかりやすい	80%	72%↓	
⑨ 学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい	84%	86%↑	
⑩ 授業を受ける前に教室の美化、机椅子はきちんと整理されている	79%	79%	
⑪ 自分にはいいところがある	71%	65%↓	
⑫ 将来の夢がある	72%	64%↓	
⑬ 地域の行事には積極的に参加している	66%	37%↓	
⑭ 自分の住んでいる町に愛着を持っている	83%	68%↓	
⑮ 早寝、早起きを心がけている	74%	49%↓	
⑯ 朝ごはんを毎日食べている	90%	82%↓	
⑰ 予習復習をきちんとできている	59%	60%↑	

★★★学習面について★★★

学校生活と相關して、設問⑦「授業は楽しい」、設問⑧「授業はわかりやすい」などの学習に関する設問にて数値の減少が見られます。しかし、設問⑨「学力を伸ばし、自らの進路実現を達成したい」の結果のように、学習がわかるようになりたいという気持ちを持っていることがわかります。したがって、生徒が学習に対して一生懸命になれるような授業改革が求められています。来年度からは、総合学習を見直し「大学ゼミ方式」を実施します。これは、探究型の活動と呼ばれる、生徒自らが問いを立ててその問いに対して探究していくというものです。来年度の3年生が中心となって取り組む、2年生・1年生も一緒に探究していくというものです。

□家庭生活について■

家庭生活に関わる設問においても、前期より数値が減少しています。思春期の時期は、子どもの心が大きく揺らぐ時期であり、子育てに難しさを感じることも多くなります。だからこそ、「地域の子供は地域で育てる」という「京都はぐくみ憲章」の理念の元、秋季大祭神輿渡御などの地域行事への積極的参加や総合学習で実施しています地域調べなどを通して、来年度以降も地域と協力した学校運営を行ってまいりたいと考えています。

●高校入試が始まりました●

2月10日(月)から私立高校の選抜試験が本格的にスタートしました。17日(月)からは公立高校の前期選抜が行われ、25日に合格発表が行われます。その3年生は自分の進路に向き合うと共に、自分自身についても考え進路選択を行います。全員が、希望する進路に進めることを願っています。

1年生の学年から入試制度が大きく変更になります。現在、新しい入試制度について策定されていますが、2年生も含まれます。2年生も入試制度に合わせた学習と向き合ってください。

1年生 職業体験に向けて

1年生は、6月に行われる職業体験(チャレンジ体験)に向けて、希望の事業所で活動するための面接試験を実施しています。礼儀作法・服装・話し方・内容の4項目にて

採用の可否が決まります。

1年生とは思えないくらい、礼儀作法、発言内容も自分の気持ちに答えている姿が印象的でした。この経験を今後の学校生活で活かして欲しいと思います。

ジュニアオリンピック出場決定

2年生のN. Cさん(2組)とH. Hさん(4組)が、女子 400Mモデルリレーにて全国JOCジュニアオリンピック春季水泳競技大会への出場を決めました。

この大会は設定されたタイムを更新した選手のみが参加できる全国規模の大会です。3月に東京で行われる大会での活躍を祈っています。

♪♪修学旅行説明会♪♪

大淀中学校では初めての修学旅行について、保護者説明会を行いました。説明会の前には、実行委員の生徒から説明が行われました。それぞれがプレゼン資料を作成して、出し物も行われました。大人に対してプレゼンする姿に感動を覚えました。なお、1年生は、生徒投票の結果、東京ディズニーランドを中心に関東方面に行きます。それぞれに、自分達で決めた修学旅行を通して見識を広げて欲しいと思います。

創立50周年記念式典

3月10日(月)に、大淀中学校創立50周年を記念して、京都市長、京都市教育長など多数の来賓の方々にお越し頂き記念式典を行います。記念式典に向けて、多くの企業様・地域の皆様より広告掲載や寄付金など多大な御協力を頂き感謝申し上げます。式典のあとには、阪神タイガースの元監督である矢野燿大氏からの講演を予定しています。式典に向けて、藤下実行委員長や、鈴木同窓会長をはじめ多くの方々にお世話になりました。

子どもたちの今と未来のため社会のあらゆる場で「京都はぐくみ憲章」を実践しよう

京都はぐくみ憲章

